

第 48 回市政アンケート調査結果報告書

四日市市
令和 2 年 12 月

— 目次 —

I	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	調査の設計	2
3	調査の内容	2
4	回収結果	2
5	報告書の見方	3
II	回答者の属性	4
III	調査結果の分析	6
1	市政全般の満足度・期待する取り組みについて	6
	（1）満足度と期待について	6
	（2）満足度と期待の傾向	9
	（3）満足度と期待の経年変化	11
	（4）市民から特に求められている施策	16
	（5）その他	21
2	日ごろの生活と市政について	22
	（1）市民の意見反映について	22
	（2）市職員に対する信頼度について	24
	（3）四日市市居住に対する総合的な満足度について	26
	（4）市の広報活動について	28
	（5）市議会について	34
3	自由意見	38

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、行政上の課題や市民生活上の問題点などについて、広く市民の意見を伺い、その結果を市政に反映させることを目的とします。

2 調査の設計

	調 査 概 要
(1) 調査対象	四日市市内に居住する 18 歳以上の市民
(2) 標本数	5,000 人
(3) 抽出方法	住民基本台帳より 18 歳以上の方から無作為抽出
(4) 実施方法	配布：郵便による調査票配布 調査票配布後、7 月 31 日に協力依頼状を送付 回収：郵送、Web
(5) 調査期間	令和 2 年 7 月 10 日～8 月 5 日

3 調査の内容

(1) 市政全般の満足度・期待する取り組みについて【問 1：40 項目】

(2) 日頃の生活と市政について【問 2～問 9】

- ① 市民の意見反映について【問 2】
- ② 市職員に対する信頼度について【問 3】
- ③ 四日市市居住に対する総合的な満足度について【問 4】
- ④ 市の広報活動について【問 5、問 6】
- ⑤ 市議会について【問 7、問 7-1、問 8】
- ⑥ 市政に対するご意見やご要望【問 9】

(注) 調査票は資料編に掲載しています。

4 回収結果

配布数	有効回答数	回収方法		無効回答数
		郵送	Web	
5,000 (100.0%)	2,085 (41.7%)	1,807 (36.1%)	278 (5.6%)	14 (0.3%)

(注) 8 月 19 日以降到着分については無効回収としています。

5 報告書の見方

- (1) n= は標本数を表しています。
- (2) 図表および本文中の数値(%)は、原則として小数点第2位以下を四捨五入してあるため、合計しても100.0%にならない場合があります。また、複数回答の場合は各回答率を合計すると、100.0%を超える場合があります。
- (3) 本報告書中の表、グラフなどの見出しおよび文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合があります。
- (4) 本報告書中の第41回～第47回調査は、平成25年度から令和元年度で実施した調査です。

□ 参 考 — アンケート調査結果と母集団との関係について —

【標本誤差について】

5,000人(母集団)を対象に無作為抽出し、有効回収結果(標本数)として、2,085人から回答をいただきました。そこで、得られた標本が母集団とどのくらい隔たりがあるかを示す指標として、標本誤差が考えられます。標本誤差は、次式で表されます。ただし、信頼度を95%とし、信頼水準(係数)を1.96と設定します。ここで、信頼度95%とは、その標本が100回に5回がその標本誤差の範囲内におさまらないという意味です。通常のアンケート調査では信頼度95%として調査設計されることが多くなっています。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\{P(1-P)/n\} \times \{(N-n)/(N-1)\}}$$

P: 回答率(該当回答数/総回答数) n: 回収数(人) N: 人口(人)

本調査の標本誤差の早見表は、下記のとおりです。

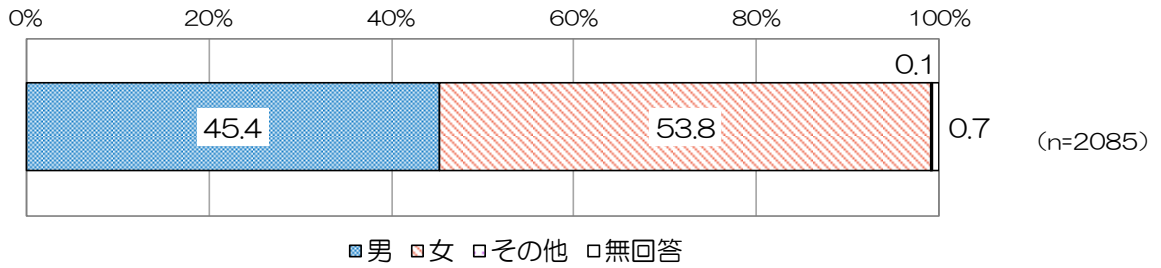
例えば、本報告書結果において、回答選択肢に対する回答比率が90%である設問の場合、下表より、これに対応する標本誤差は±1.3%であるので、母集団(住民基本台帳で令和2年7月1日における18歳以上の四日市市民全体)の回答比率は88.7%(=90%-1.3%)～91.3%(=90%+1.3%)であると推定されます。

【標本誤差の早見表】

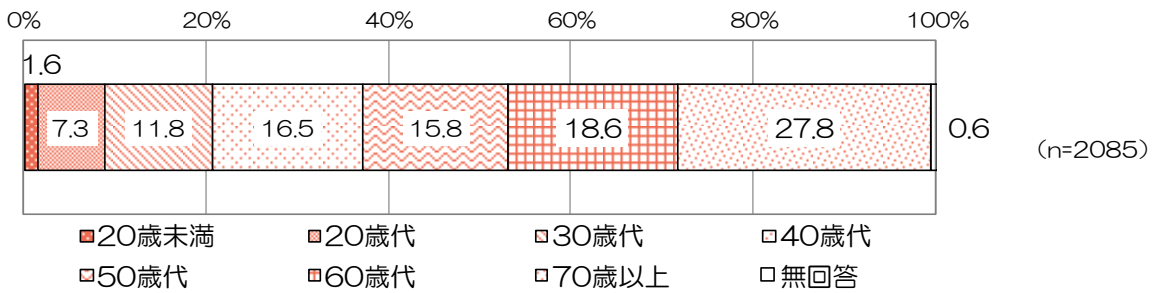
回答比率	5%または 95%	10%または 90%	20%または 80%	30%または 70%	40%または 60%	50%
標本誤差	±0.9%	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.1%

Ⅱ 回答者の属性

1 性別

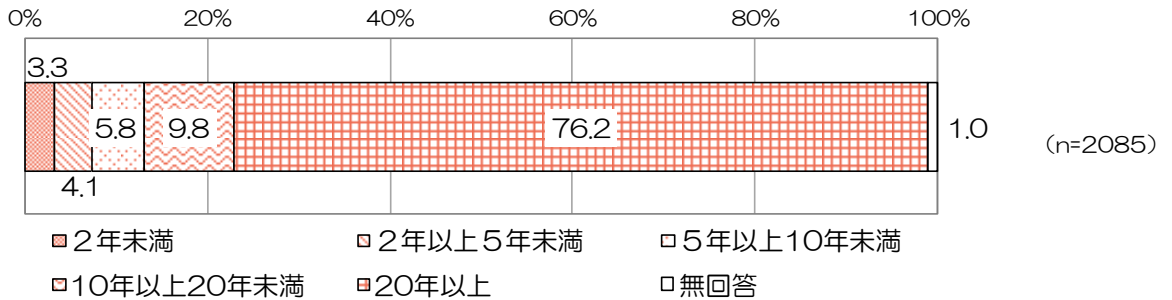


2 年齢

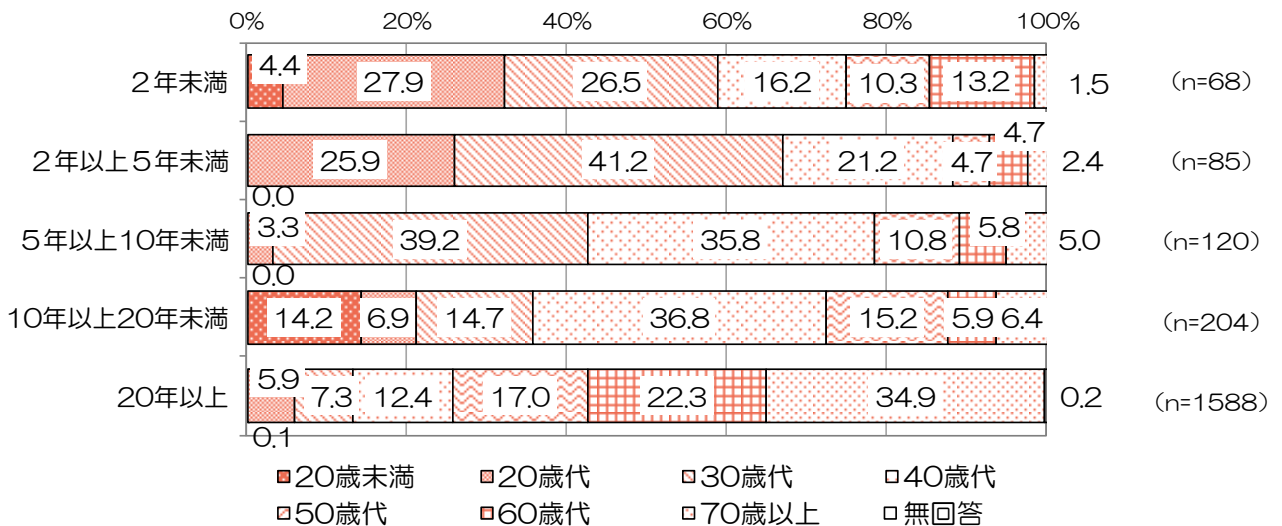


3 居住年数

居住年数が20年以上と回答した人が全体の3/4以上を占めています。

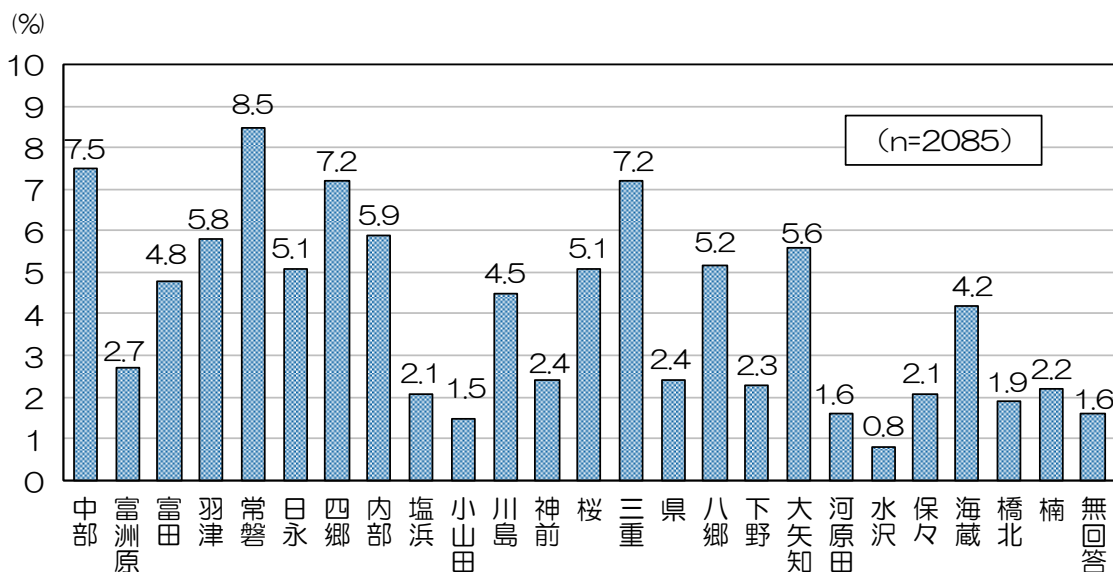


ただし、居住年数が「2年未満」、「2年以上5年未満」は30歳以下の人が半数を超えており、居住年数が短い人は若い年齢層の占める割合が高いことがわかります。

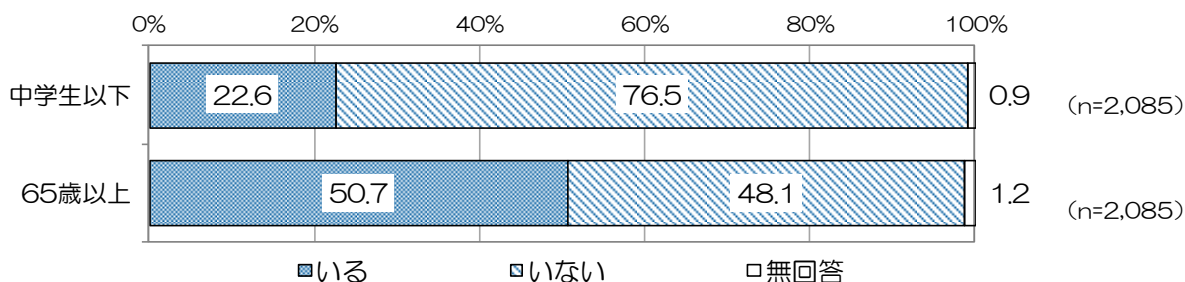


4 地区

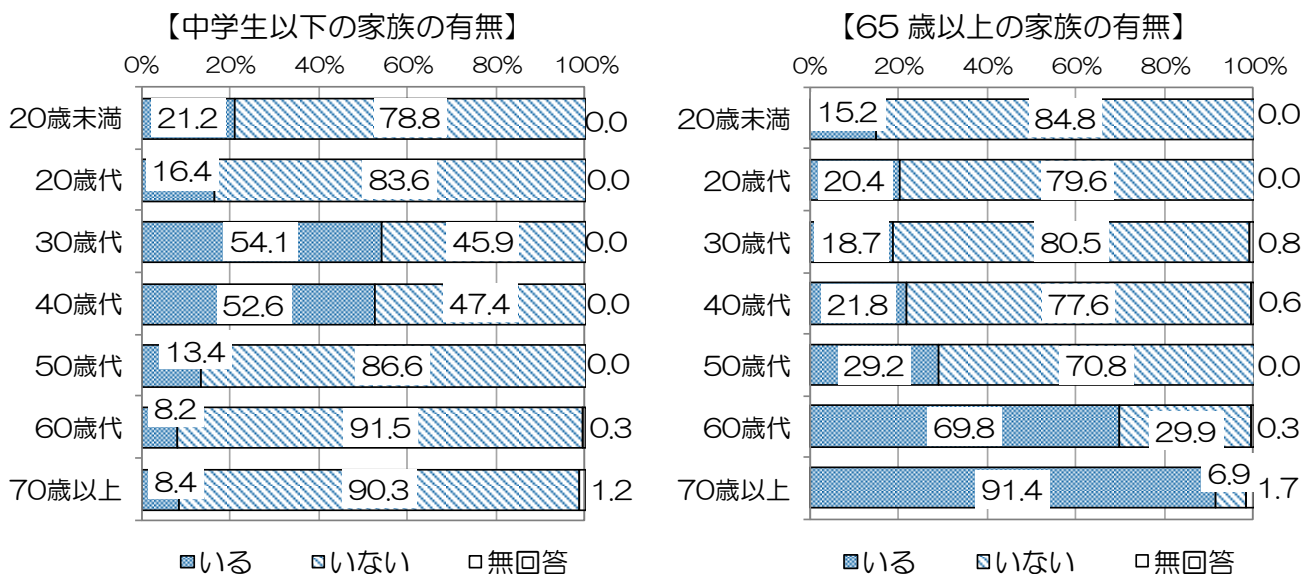
居住人口の割合にほぼ比例して常磐地区 8.5%、中部地区 7.5%、三重地区と四郷地区がともに 7.2%の順に回答者が多い地区となっています。反対に、水沢地区 0.8%、小山田地区 1.5%、河原田地区 1.6%は回答者が少ない地区となっています。



5 家族構成



30歳代および40歳代の回答者は半数以上の家庭で中学生以下の家族がいます。一方で、家族の中に65歳以上の高齢者がいる人の割合は、30歳代以上では年齢が上がるにつれて増加しています。



Ⅲ 調査結果の分析

1 市政全般の満足度・期待する取り組みについて

問1. あなたは、四日市市が行っているさまざまな取り組みについて、満足していますか。それぞれの取り組みについて、「これまでの取り組みに対する満足度」の欄から 1つ選んで番号に○をつけてください。
また、四日市市が行っているさまざまな取り組みのうち、今後あなたが、「特に期待する取り組み」について、当てはまるものをすべて選んで○をつけてください。

ここでは、四日市市が行っている施策や事業（40項目）について、各項目「満足度」についてそれぞれ5段階で評価していただくとともに、今後、特に期待する取り組みについて、選んでいただきました。

（1）満足度と期待について

本調査では、市の実施する施策に対する満足度および特に期待する取り組みについて回答いただきました。

評価していただく項目については40項目とし、具体的な実施事業例の記載とともに、最近の市の主要な施策を別紙で紹介し、現在行っている施策・事業の内容を分かりやすく情報提供することを心がけています。

◆満足度の示し方

項目ごとの満足度については、満足度のそれぞれの選択肢に、下記に示すような点数をつけ得点合計を回答数で割って、算出しました。なお、回答数は各項目の全回答数より無回答数、「わからない」と回答された数を差し引いた値です。

$$\text{満足度} = \frac{\text{「非常に満足」} \times 5 + \text{「満足」} \times 4 + \text{「ふつう」} \times 3 + \text{「不満」} \times 2 + \text{「非常に不満」} \times 1}{\text{全回答数}(n) - \text{無回答数} - \text{「わからない」}}$$

◆期待の示し方

各施策項目において、「今後あなたが『特に期待する取り組み』に○を付けてください（いくつでも）」と表記した記載欄に○を付けていただいた人の割合（%）を算出しました。

$$\text{期待} = \frac{\text{○が付いた数}}{\text{全回答数}(n)}$$

◆満足度および期待の算定結果

満足度評価得点および期待の算定結果について、次ページに示します。

【整理にあたっての留意点】

- 本調査結果と過年度調査結果（第 41 回～第 47 回）を比較する場合、設問の仕方ならびに設問項目数などが異なっており、留意する必要があります。
 - ① 設問の仕方の違い
設問項目に関する表記については、回答者に施策・事業内容を理解していただくために、各年度で若干異なっています。
 - ② 項目数の違い
第 41 回（40）、第 42 回（41）、第 43 回（40）、第 44 回（40）
第 45 回（40）、第 46 回（40）、第 47 回（40）、第 48 回（40）
（ ）内の数値は項目数（設問数）を示す。
（注） 設問項目も異なっている場合があります。

－ 満足度評価得点と期待（40項目）－

施策項目		満足度（5段階）		期待	
		評価得点	順位 (高い順)	“○”が付いた割合	順位 (高い順)
★	1 市街地の土地の有効活用	2.96	29位 (40位)	9.2%	17位 (10位)
★	2 空き家対策の取り組み	2.65	40位 (38位)	12.1%	10位 (13位)
	3 緑化の推進	3.16	9位 (11位)	9.8%	15位 (15位)
	4 適正なごみ処理の推進	3.63	1位 (1位)	10.0%	14位 (16位)
	5 環境保全への取り組み	3.11	14位 (14位)	9.8%	15位 (22位)
	6 上下水道の整備	3.41	3位 (3位)	10.4%	13位 (14位)
	7 農林水産業の振興	3.05	20位 (23位)	7.1%	27位 (27位)
	8 産業振興への取り組み	3.01	22位 (24位)	5.3%	31位 (31位)
	9 中心市街地の活性化	2.96	31位 (28位)	9.2%	18位 (22位)
	10 観光の推進	3.13	12位 (7位)	8.3%	24位 (24位)
★	11 雇用および就労の促進	2.87	37位 (36位)	11.7%	12位 (9位)
★	12 公共交通利用環境の向上	2.80	38位 (39位)	17.0%	3位 (1位)
★	13 道路や橋梁の維持管理	2.77	39位 (37位)	14.0%	7位 (11位)
★	14 移動しやすい道路網の整備	2.87	36位 (27位)	16.4%	4位 (6位)
	15 交通安全対策の充実	2.95	32位 (29位)	9.0%	21位 (16位)
	16 親しまれる港づくり	3.16	10位 (5位)	3.8%	36位 (36位)
★	17 災害に強いまちづくり	2.98	27位 (20位)	14.6%	6位 (7位)
★	18 安全・安心なまちづくりの推進	2.88	35位 (34位)	15.9%	5位 (4位)
★	19 治水対策の推進	2.96	30位 (22位)	12.1%	9位 (26位)
	20 消費者保護の推進	2.99	24位 (26位)	3.0%	40位 (37位)
	21 消防・救急体制の充実	3.42	2位 (2位)	9.1%	19位 (24位)
	22 子育て支援の充実	3.22	5位 (12位)	13.5%	8位 (5位)
★	23 高齢者福祉の充実	2.92	34位 (35位)	17.3%	2位 (2位)
	24 障害者福祉の充実	2.96	28位 (31位)	8.5%	23位 (20位)
	25 検診・健康づくりの充実	3.32	4位 (4位)	9.0%	20位 (12位)
	26 バリアフリー化の推進	2.95	33位 (30位)	7.9%	25位 (21位)
	27 公園の整備・維持補修	2.98	26位 (32位)	7.6%	26位 (18位)
	28 人権を尊重するまちづくり	3.14	11位 (15位)	3.5%	38位 (40位)
	29 男女共同参画社会の推進	3.08	16位 (17位)	3.3%	39位 (37位)
	30 安心な医療体制の確保	3.09	15位 (16位)	19.2%	1位 (3位)
★	31 学校での教育環境の充実	2.99	25位 (25位)	12.1%	10位 (8位)
	32 家庭や地域と連携した学校づくり	3.17	7位 (9位)	5.1%	32位 (32位)
	33 青少年健全育成の推進	3.07	18位 (18位)	4.9%	33位 (29位)
	34 芸術文化に親しむ場と機会の提供	3.12	13位 (6位)	5.4%	30位 (29位)
	35 スポーツに親しむ場や機会の提供	3.17	8位 (8位)	6.4%	28位 (28位)
	36 生涯学習機会の提供	3.08	17位 (13位)	4.5%	34位 (34位)
	37 地域コミュニティの活性化	3.06	19位 (19位)	4.4%	35位 (34位)
	38 多文化共生の推進	3.04	21位 (21位)	3.6%	37位 (39位)
	39 開かれた市政推進	3.17	6位 (10位)	5.5%	29位 (32位)
	40 健全な財政の維持	3.00	23位 (33位)	8.9%	22位 (18位)
平均		3.06	—	9.2%	—

※ 「★」は満足度が平均値未満かつ期待が平均値以上の項目

※ ()内は令和元年度の順位

(2) 満足度と期待の傾向

満足度は、全 40 項目の平均得点が 3.06 となり、前回調査 (2.99) と比較すると上昇し、5 段階評価の平均である 3 を上回りました。個別にみて満足度が上昇した項目は 34 項目あり、前回調査時の 15 項目より大きく増加しています。上昇幅が最も大きかった項目は、前回全 40 項目中最も満足度の低かった「市街地の土地の有効活用 (+0.35)」であり、その他 +0.10 以上満足度が上昇した項目は「公共交通利用環境の向上 (+0.18)」「子育て支援の充実 (+0.16)」「健全な財政の維持 (+0.14)」「農林水産業の振興 (+0.12)」「高齢者福祉の充実 (+0.11)」「公園の整備・維持補修 (+0.10)」となっています。最も満足度が高い項目は、前回調査に引き続き「適正なごみ処理の推進」となり、今回最も満足度が低い項目は、「空き家対策の取り組み」となりました。

一方、期待については、全 40 項目の平均得点が 9.2%となり、前回調査 (10.2%) と比較して数値は低下しました。また、個別でみると期待が上昇した項目は 6 項目と、前回調査時の 10 項目よりやや減少しています。上昇幅が最も大きかった項目は「治水対策の推進 (+3.5%)」でした。また最も期待が大きい項目は、「安心な医療体制の確保」で、次いで「高齢者福祉の充実」となっています。

【満足度上位項目】

1 位(←)(前回 1 位)	適正なごみ処理の推進	3.63(↑)(前回 3.59)
2 位(←)(前回 2 位)	消防・救急体制の充実	3.42(←)(前回 3.42)
3 位(←)(前回 3 位)	上下水道の整備	3.41(↑)(前回 3.33)
4 位(←)(前回 4 位)	検診・健康づくりの充実	3.32(↑)(前回 3.23)
5 位(↑)(前回 12 位)	子育て支援の充実	3.22(↑)(前回 3.07)

【満足度下位項目】

40 位(↓)(前回 38 位)	空き家対策の取り組み	2.65(↓)(前回 2.71)
39 位(↓)(前回 37 位)	道路や橋梁の維持管理	2.77(↑)(前回 2.75)
38 位(↑)(前回 39 位)	公共交通利用環境の向上	2.80(↑)(前回 2.62)
37 位(↓)(前回 36 位)	雇用および就労の促進	2.87(↑)(前回 2.74)
36 位(↓)(前回 27 位)	移動しやすい道路網の整備	2.87(↓)(前回 2.92)

【期待上位項目】

1 位(↑)(前回 3 位)	安心な医療体制の確保	19.2%(↓)(前回 20.5%)
2 位(←)(前回 2 位)	高齢者福祉の充実	17.3%(↓)(前回 20.6%)
3 位(↓)(前回 1 位)	公共交通利用環境の向上	17.0%(↓)(前回 23.3%)
4 位(↑)(前回 6 位)	移動しやすい道路網の整備	16.4%(↑)(前回 14.6%)
5 位(↓)(前回 4 位)	安全・安心なまちづくりの推進	15.9%(↓)(前回 17.1%)

【属性別傾向特記事項】

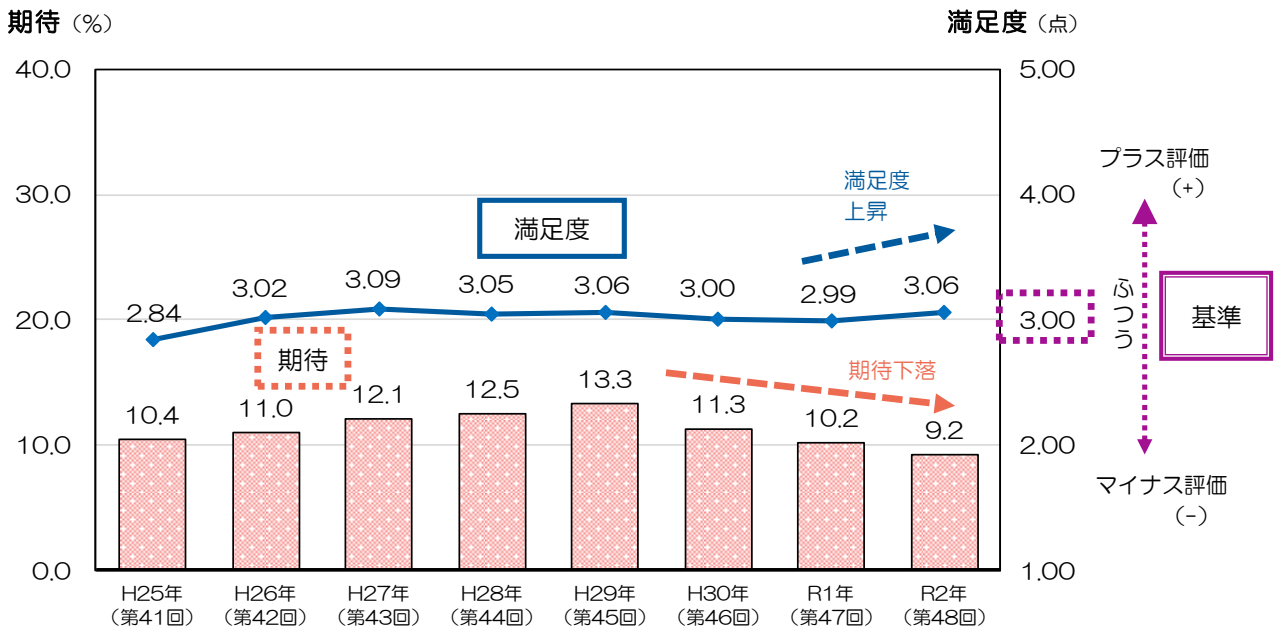
また、回答者の属性別（性別・年齢・家族構成・居住年数・地区）に見た傾向の中で、特筆すべき事項を以下に示します。なお、一部の属性については、母数が少ないことに留意する必要があります。

性別	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全般的に女性の方が男性より満足度が高い（40 項目平均、男性 3.03、女性 3.08）（女性の方が満足度の高い項目が 31 項目）。 ○ 女性の満足度が高く男女差が大きい項目は、「移動しやすい道路網の整備」（男性 2.77、女性 2.97）、「交通安全対策の充実」（男性 2.86、女性 3.03）、「検診・健康づくりの充実」（男性 3.24、女性 3.38）などとなっている。 ○ 男性の満足度が高く男女差の比較的大きい項目は、「環境保全への取り組み」（男性 3.15、女性 3.08）、「安心な医療体制の確保」（男性 3.12、女性 3.07）などとなっている。 <p>※ 性別「その他」は母数が少ないため比較から除いている。</p>
年齢別	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全般的に低い年齢層の方が満足度は高い傾向がみられる。 ○ 満足度の年齢別での差が大きい項目は、「高齢者福祉の充実」（最大評価 20 歳未満 3.79、最小評価 60 歳代 2.71）、「農林水産業の振興」（最大評価 20 歳未満 3.76、最小評価 60 歳代 2.89）となっている。 ○ 満足度の年齢別での差が小さい項目は、「公園の整備・維持補修」（最大最小差 0.30）「安全・安心なまちづくりの推進」（最大最小差 0.31）、となっている。
居住年数別	<ul style="list-style-type: none"> ○ 満足度の居住年数別での差が大きい項目は、「交通安全対策の充実」（最大評価 10～20 年 3.09、最小評価 2～5 年 2.51）、「移動しやすい道路網の整備」（最大評価 20 年以上 2.90、最小評価 2～5 年 2.47）となっている。 ○ 満足度の居住年数別での差が小さい項目は、「観光の推進」（最大最小差 0.13）、「学校での教育環境の充実」（最大最小差 0.13）、「公園の整備・維持補修」（最大最小差 0.14）となっている。
家族構成別 （中学生以下 の子どもの 有無）	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子育て世帯の方が満足度の低い項目は、「上下水道の整備」（子ども同居あり 3.35、なし 3.43）、「消防・救急体制の充実」（子ども同居あり 3.37、なし 3.43）となっている。 ○ 子育て世帯の方が満足度の高い項目として、「中心市街地の活性化」（あり 3.14、なし 2.90）、「公共交通利用環境の向上」（あり 2.96、なし 2.75）となっている。
地区別	<ul style="list-style-type: none"> ○ 満足度の地区別での差が大きい項目は、「上下水道の整備」（最大評価 4.12、最小評価 3.07）、「空き家対策の取り組み」（最大評価 3.00、最小評価 2.24）、「移動しやすい道路網の整備」（最大評価 3.18、最小評価 2.43）となっている。 ○ 満足度の地区別での差が小さい項目は、「緑化の推進」（最大最小差 0.27）、「家庭や地域と連携した学校づくり」（最大最小差 0.38）、「消費者保護の推進」（最大最小差 0.39）となっている。

(3) 満足度と期待の経年変化

満足度（評価得点）と期待の経年変化を、過年度調査結果（第41回～第47回）を踏まえて整理します。満足度の平均値は、第43回調査をピークに第47回調査にかけて下落傾向となっていました。本調査では増加して3.06となりました。期待の平均値は、第45回以降下落を続けており、本調査では第41回以降最低の9.2%となりました。

個別で見ると、「市街地の土地の有効活用」（+0.35）や「公共交通利用環境の向上」（+0.18）、「子育て支援の充実」（+0.16）で満足度の上昇幅が大きく、反対に、前回から満足度が下がった項目は、「空き家対策の取り組み」（-0.06）や「移動しやすい道路網の整備」（-0.05）などです。一方、期待では、「治水対策の推進」（+3.5%）で上昇幅が、「公共交通利用環境の向上」（-6.3%）で下落幅が最も大きくなっています。



一 満足度の増減幅の大きい施策項目（上位5位） 一

順位	施策項目	今回 (令和2年度)	前回 (令和元年度)	増減幅
1位	(1)市街地の土地の有効活用	2.96	2.61	+0.35
2位	(12)公共交通機関の利用のしやすさ	2.80	2.62	+0.18
3位	(22)子育て支援の充実	3.22	3.07	+0.16
4位	(40)健全な財政の維持	3.00	2.86	+0.14
5位	(7)農林水産業の振興	3.05	2.94	+0.12

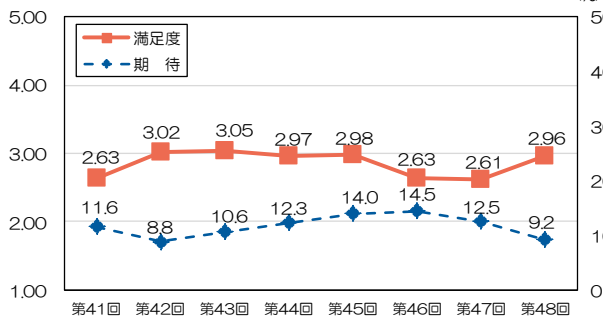
一 期待の増減幅の大きい施策項目（上位5位） 一

順位	施策項目	今回 (令和2年度)	前回 (令和元年度)	増減幅
1位	(12)公共交通利用環境の向上	17.0%	23.3%	-6.3%
2位	(19)治水対策の推進	12.1%	8.6%	+3.5%
3位	(23)高齢者福祉の充実	17.3%	20.6%	-3.3%
4位	(1)市街地の土地の有効活用	9.2%	12.5%	-3.3%
5位	(25)検診・健康づくりの充実	9.0%	11.7%	-2.7%

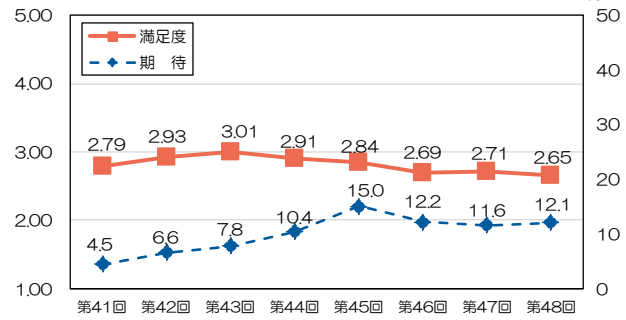
－ 満足度と期待の経年変化（40項目）－

（注）第48回：本年度調査、第41回～第47回：平成25年度～令和元年度調査

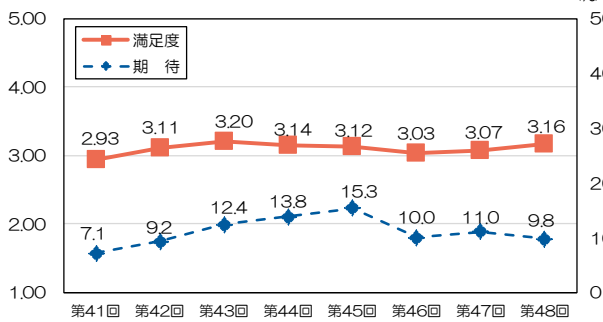
(1) 市街地の土地の有効活用



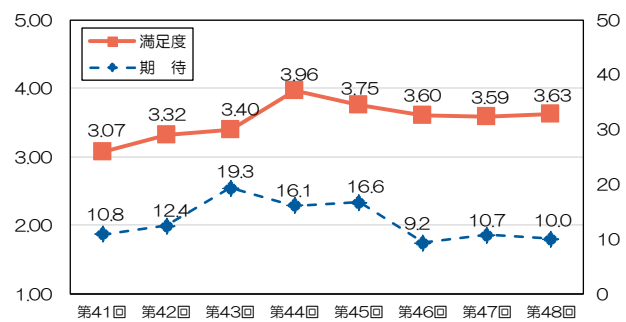
(2) 空き家対策の取り組み



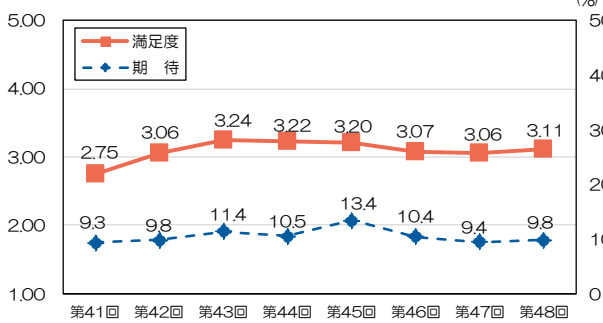
(3) 緑化の推進



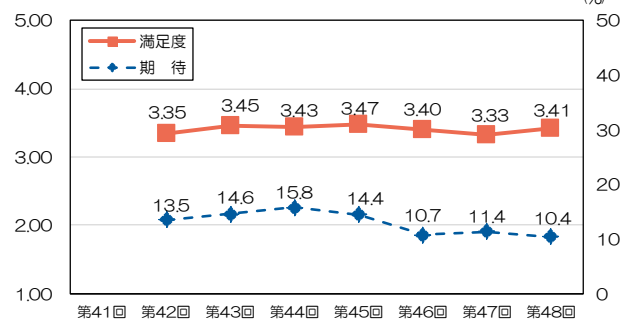
(4) 適正なごみ処理の推進



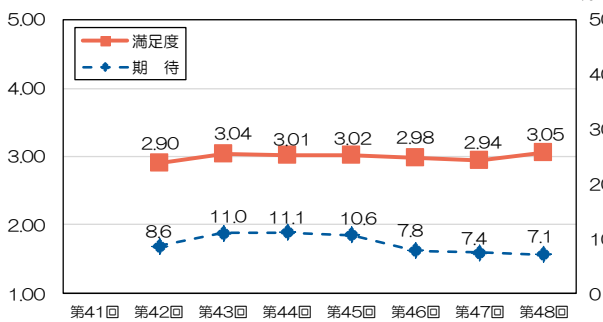
(5) 環境保全への取り組み



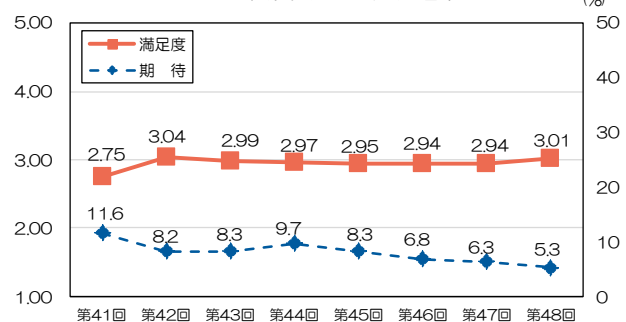
(6) 上下水道の整備



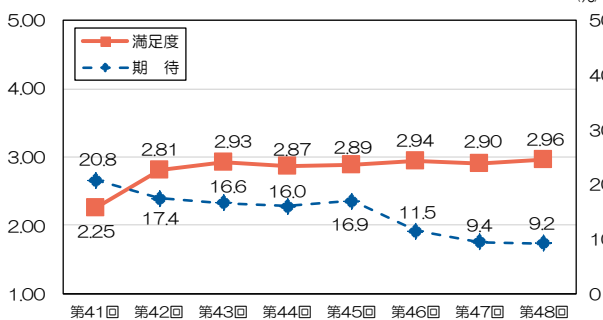
(7) 農林水産業の振興



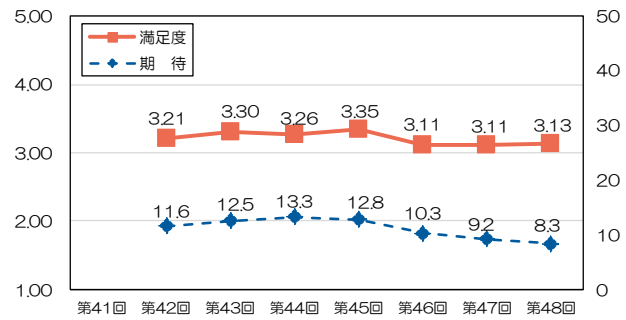
(8) 産業振興への取り組み



(9) 中心市街地の活性化



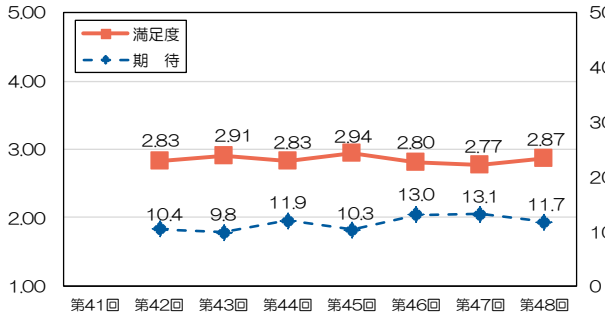
(10) 観光の推進



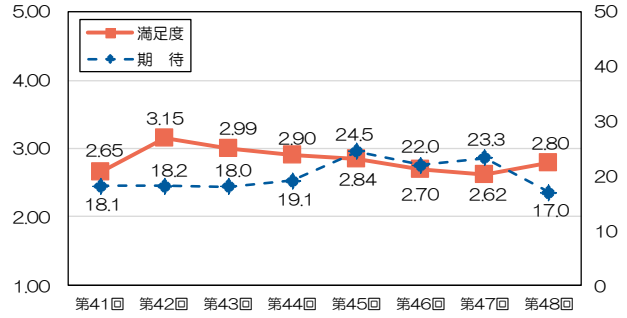
－ 満足度と期待の経年変化（40項目）－

（注）第48回：本年度調査、第41回～第47回：平成25年度～令和元年度調査

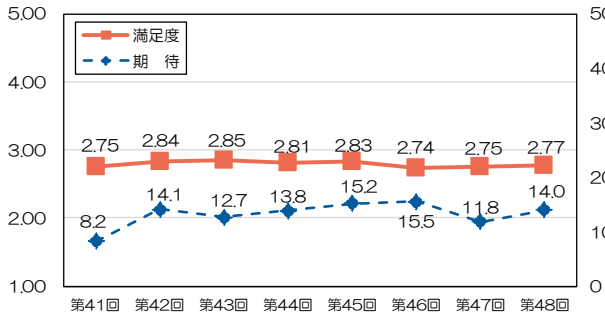
(11) 雇用及び就労の促進



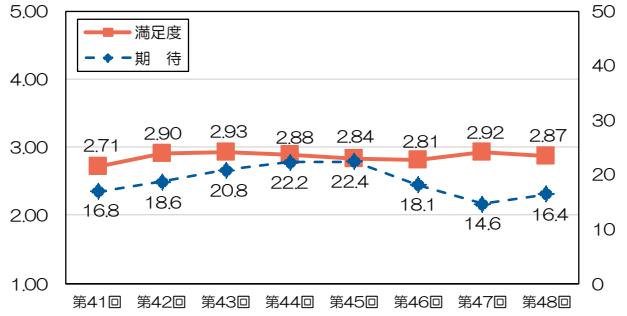
(12) 公共交通機関の利用のしやすさ



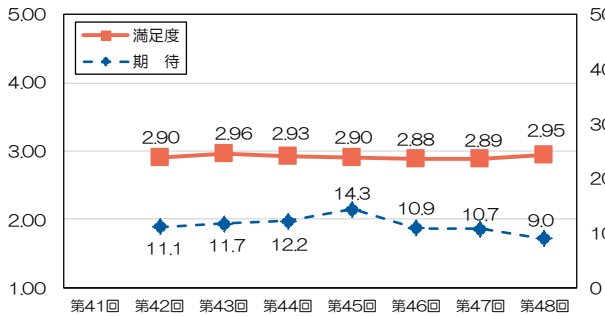
(13) 道路の維持管理と長寿命化の推進



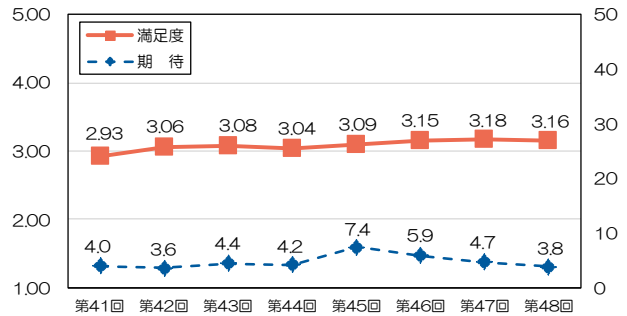
(14) 移動しやすい道路網の整備



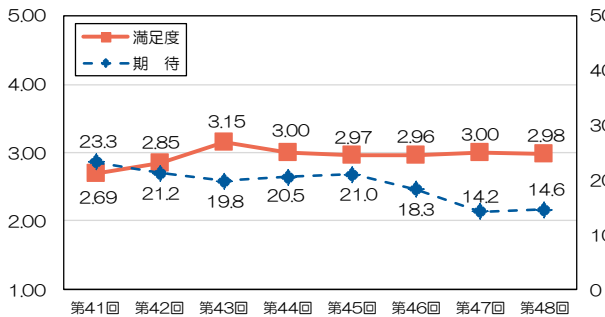
(15) 交通安全対策の充実



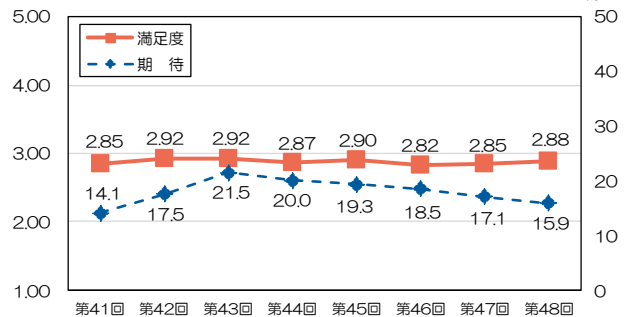
(16) 親しまれる港づくり



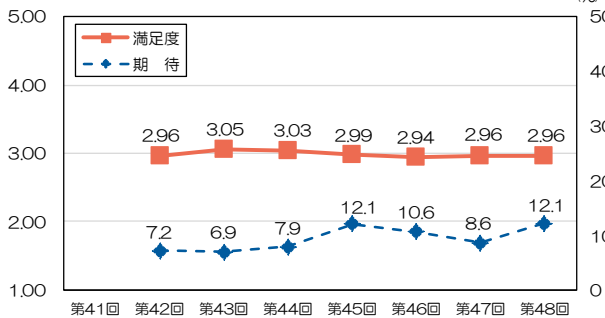
(17) 災害に強いまちづくり



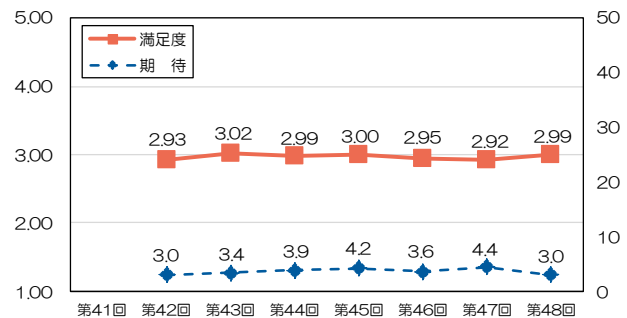
(18) 安全・安心なまちづくりの推進



(19) 治水対策の推進



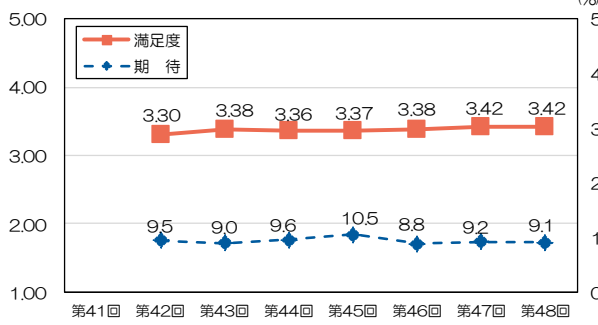
(20) 消費者保護の推進



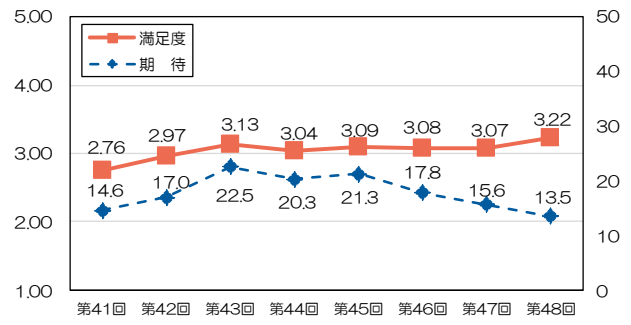
一 満足度と期待の経年変化（40項目）一

（注）第48回：本年度調査、第41回～第47回：平成25年度～令和元年度調査

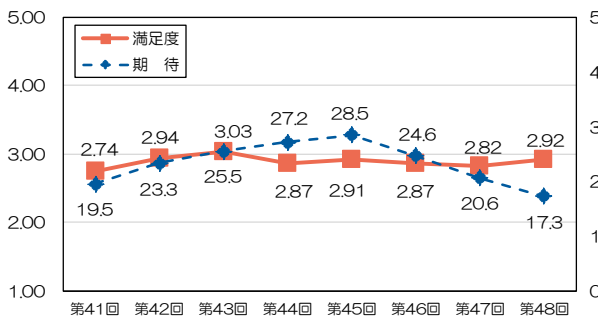
(21) 消防・救急体制の充実



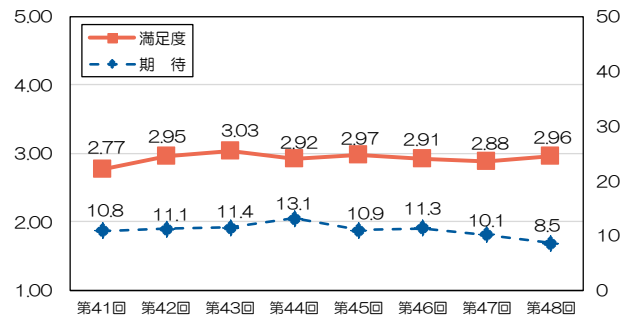
(22) 子育て支援の充実



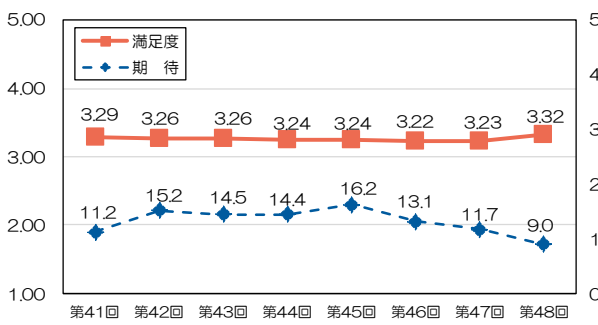
(23) 高齢者福祉の充実



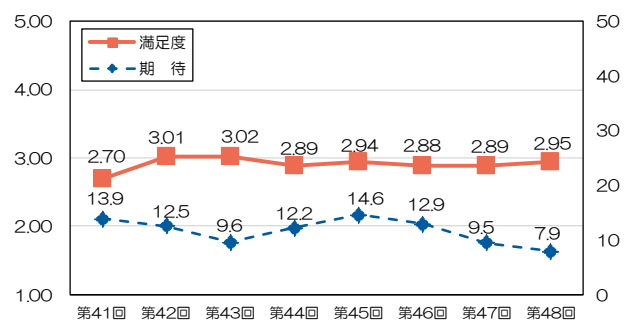
(24) 障害者福祉の充実



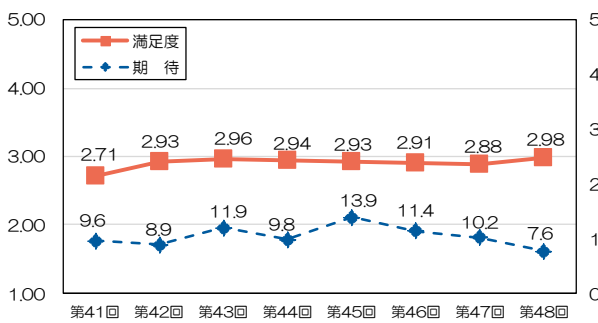
(25) 検診・健康サービスの充実



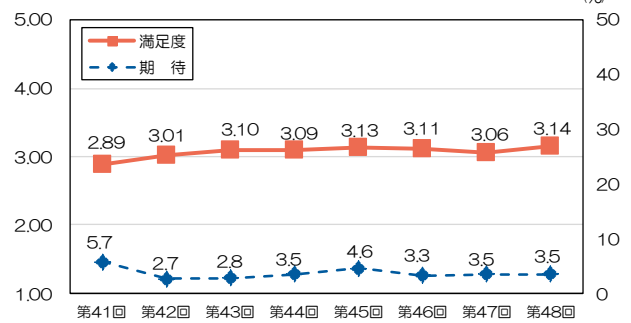
(26) バリアフリー化の推進



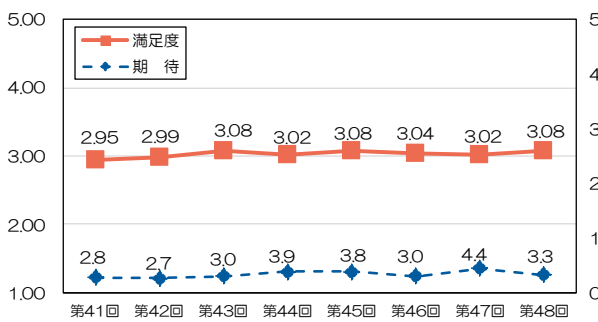
(27) 公園の整備・維持補修



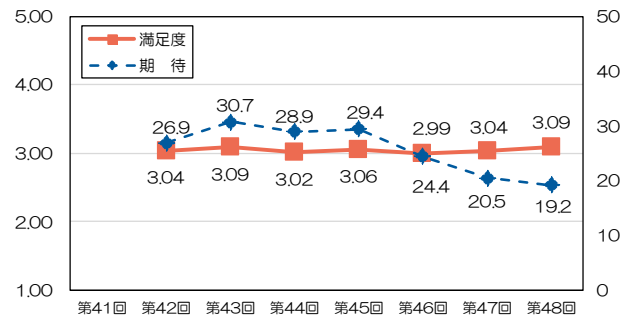
(28) 人権を尊重するまちづくり



(29) 男女共同参画社会の推進



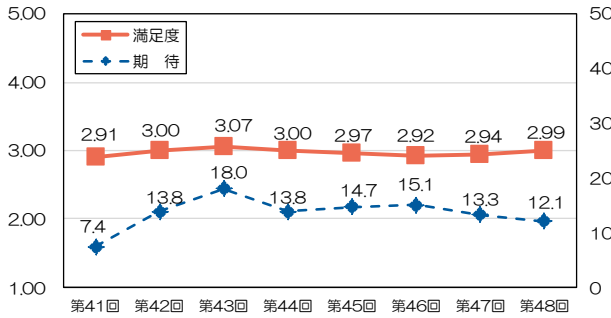
(30) 安心な医療体制の確保



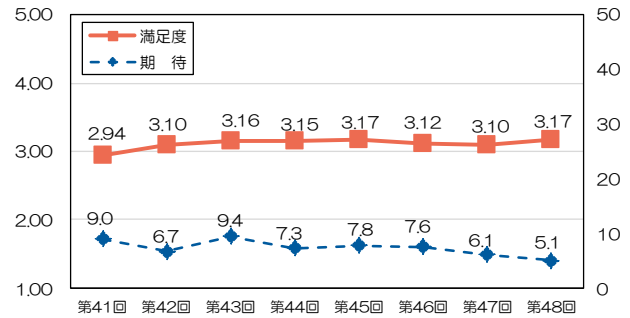
－ 満足度と期待の経年変化（40項目）－

（注）第48回：本年度調査、第41回～第47回：平成25年度～令和元年度調査

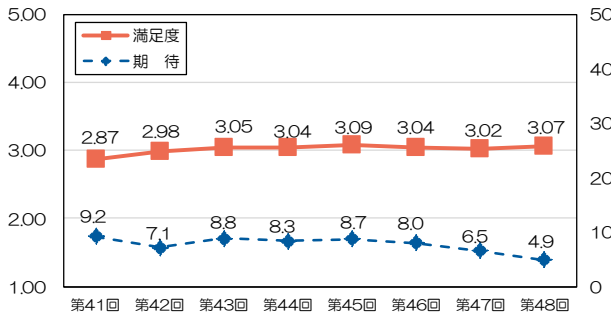
(31) 学校での教育環境の充実 (%)



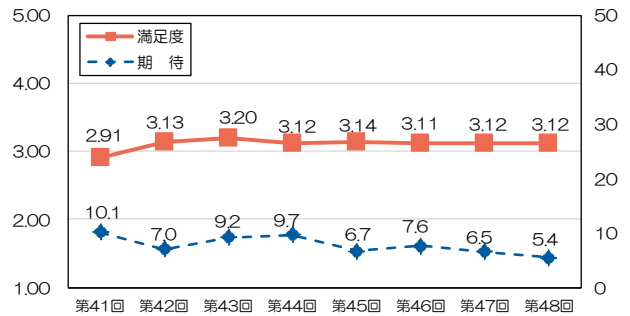
(32) 家庭や地域と連携した学校づくり (%)



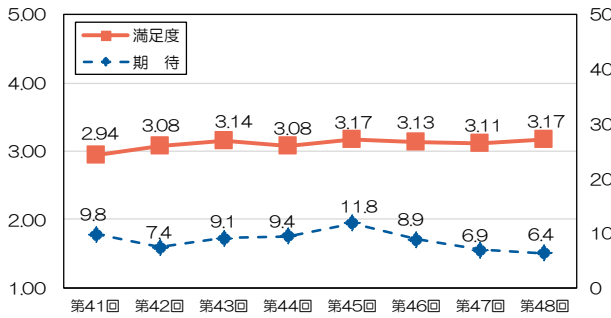
((33) 青少年健全育成の推進 (%)



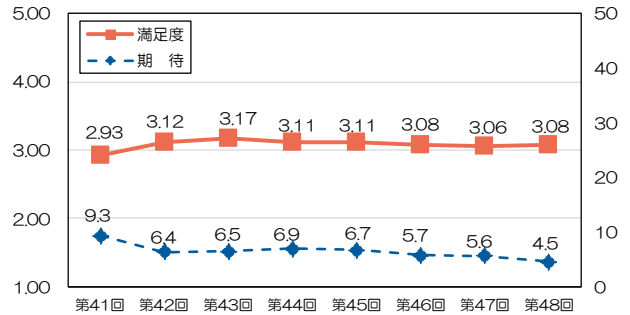
(34) 芸術文化に親しむ場と機会の提供 (%)



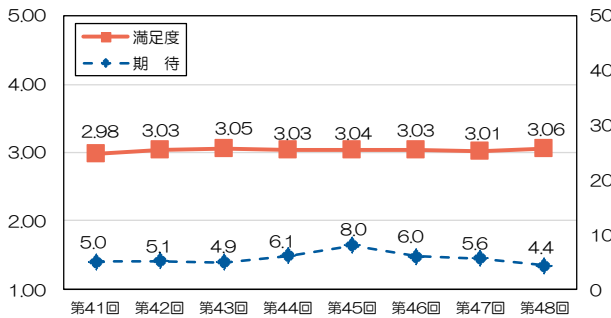
(35) スポーツに親しむ場や機会の提供 (%)



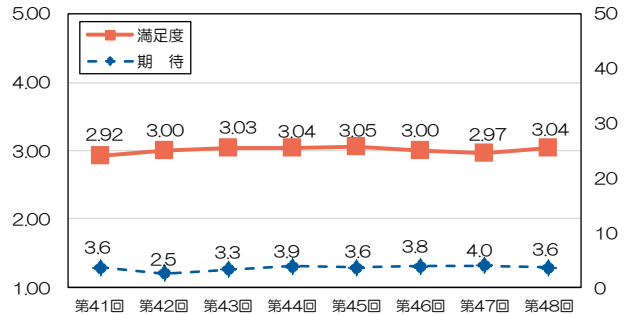
(36) 生涯学習機会の提供 (%)



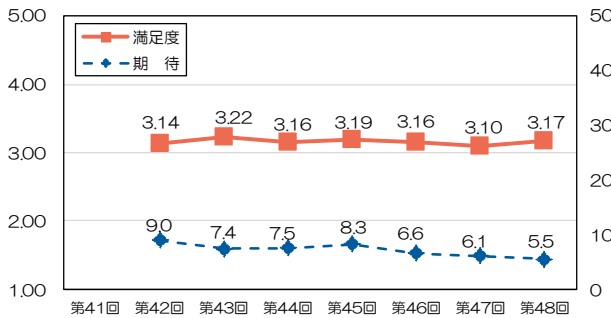
(37) 地域コミュニティの活性化 (%)



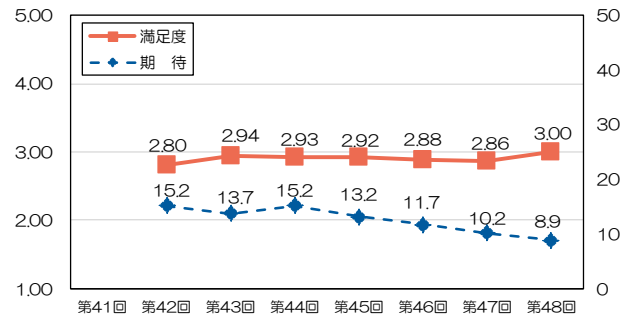
(38) 多文化共生の推進 (%)



(39) 開かれた市政推進 (%)



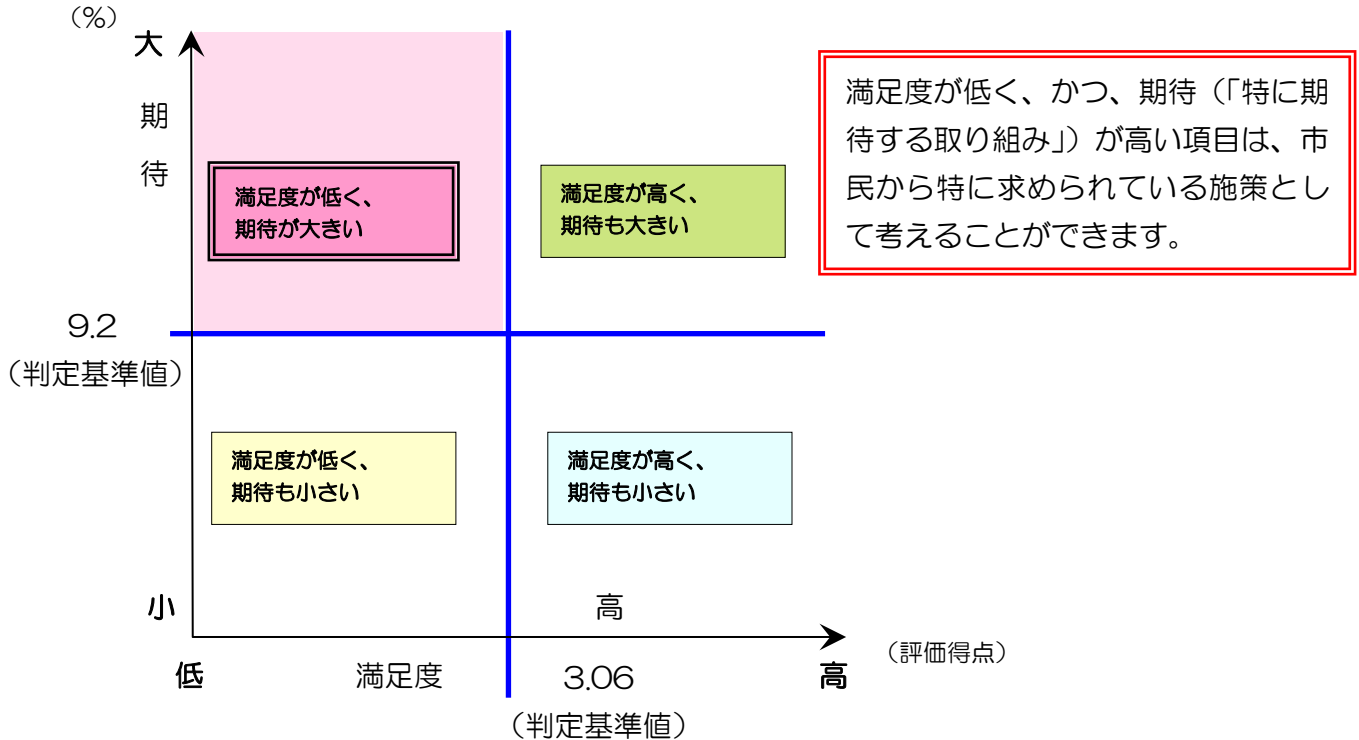
(40) 健全な財政の維持 (%)



(4) 市民から特に求められている施策

ここでは、市政全般の満足度と期待（問1）から、市民から特に求められている施策を分析します。

〈分析方法〉



各項目の判定基準は、

- ・満足度 は 施策・事業項目（40 項目）の平均値未満（3.06）
- ・期待 が 平均値以上（9.2%）

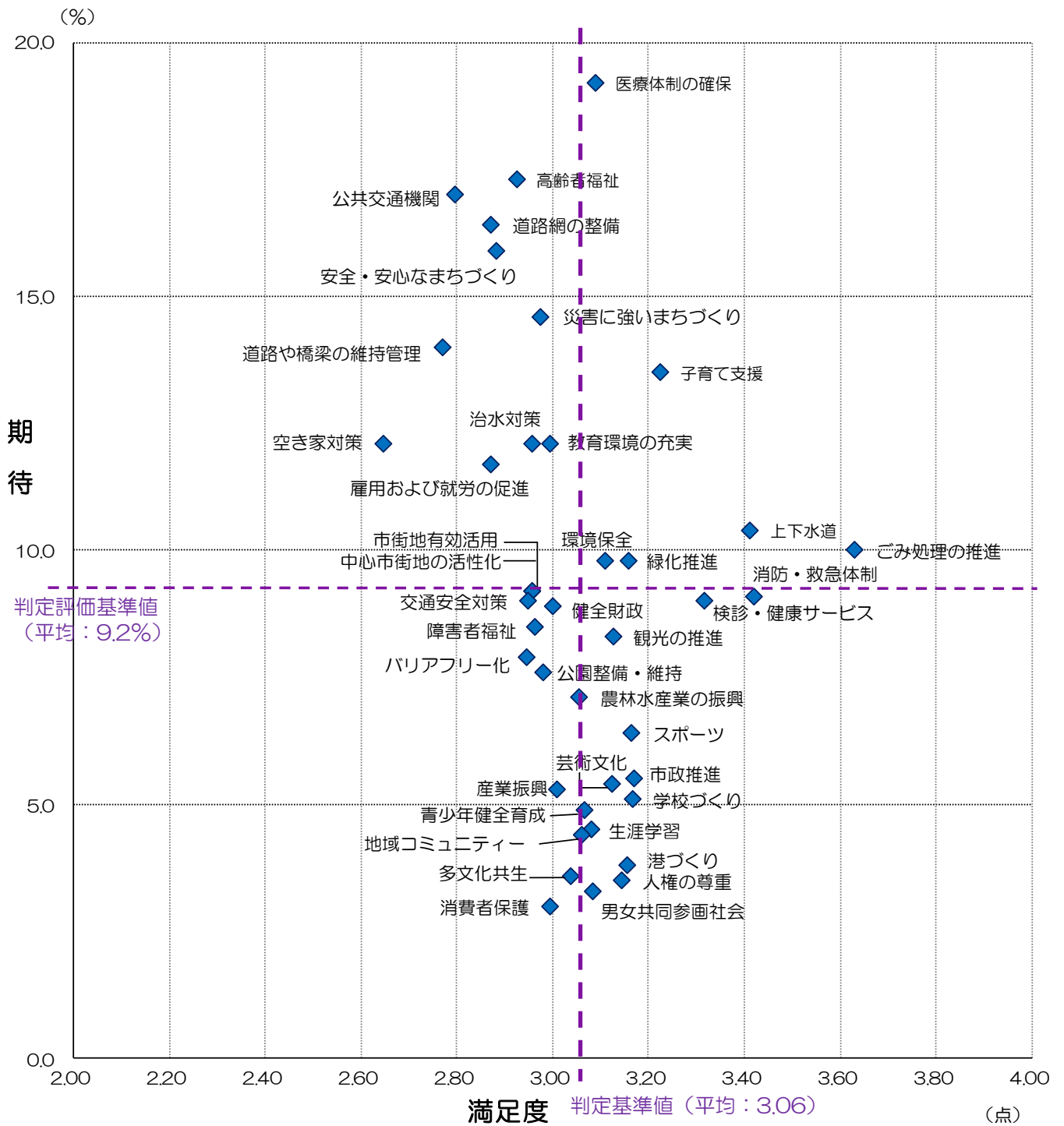
を目安として、『市民から特に求められている施策』と設定します。

【 施策・事業項目に対する考え方 】

〈分類〉

満足度が低く、期待が大きい ⇒	市民から特に求められている施策
満足度が高く、期待も大きい ⇒	より一層の展開が望まれる施策
満足度が低く、期待も小さい ⇒	市民の意向を把握した上での再検討が求められている施策
満足度が高く、期待が小さい ⇒	一定の成果がみられる施策、または、事業の必要性について市からの周知が望まれる施策

— 満足度と期待の分布（40項目） —



以上の基準により、満足度と期待の数値により施策を分類すると、下表のとおりとなり、「市民から特に求められている施策」は、11項目が抽出されました。

<p>市民から特に求められている施策 <small>(満足度が低く、期待が大きい)</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 市街地の土地の有効活用 ● 空き家対策の取り組み ● 雇用および就労の促進 ● 公共交通利用環境の向上 ● 道路や橋梁の維持管理 ● 移動しやすい道路網の整備 ● 災害に強いまちづくり ● 安全・安心なまちづくりの推進 ● 治水対策の推進 ● 高齢者福祉の充実 ● 学校での教育環境の充実 <p style="text-align: right;">(11項目)</p>
<p>より一層の展開が望まれる施策 <small>(満足度が高く、期待も大きい)</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑化の推進 ● 適正なごみ処理の推進 ● 環境保全への取り組み ● 上下水道の整備 ● 子育て支援の充実 ● 安心な医療体制の確保 <p style="text-align: right;">(6項目)</p>
<p>市民の意向を把握した上での再検討が求められている施策 <small>(満足度が低く、期待も小さい)</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 農林水産業の振興 ● 産業振興への取り組み ● 中心市街地の活性化 ● 交通安全対策の充実 ● 消費者保護の推進 ● 障害者福祉の充実 ● バリアフリー化の推進 ● 公園の整備・維持補修 ● 多文化共生の推進 ● 健全な財政の維持 <p style="text-align: right;">(10項目)</p>
<p>一定の成果がみられる施策、または、事業の必要性についての市からの周知が望まれる施策 <small>(満足度が高く、期待が小さい)</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光の推進 ● 親しまれる港づくり ● 消防・救急体制の充実 ● 検診・健康づくりの充実 ● 人権を尊重するまちづくり ● 男女共同参画社会の推進 ● 家庭や地域と連携した学校づくり ● 青少年健全育成の推進 ● 芸術文化に親しむ場と機会の提供 ● スポーツに親しむ場や機会の提供 ● 生涯学習機会の提供 ● 地域コミュニティの活性化 ● 開かれた市政推進 <p style="text-align: right;">(13項目)</p>

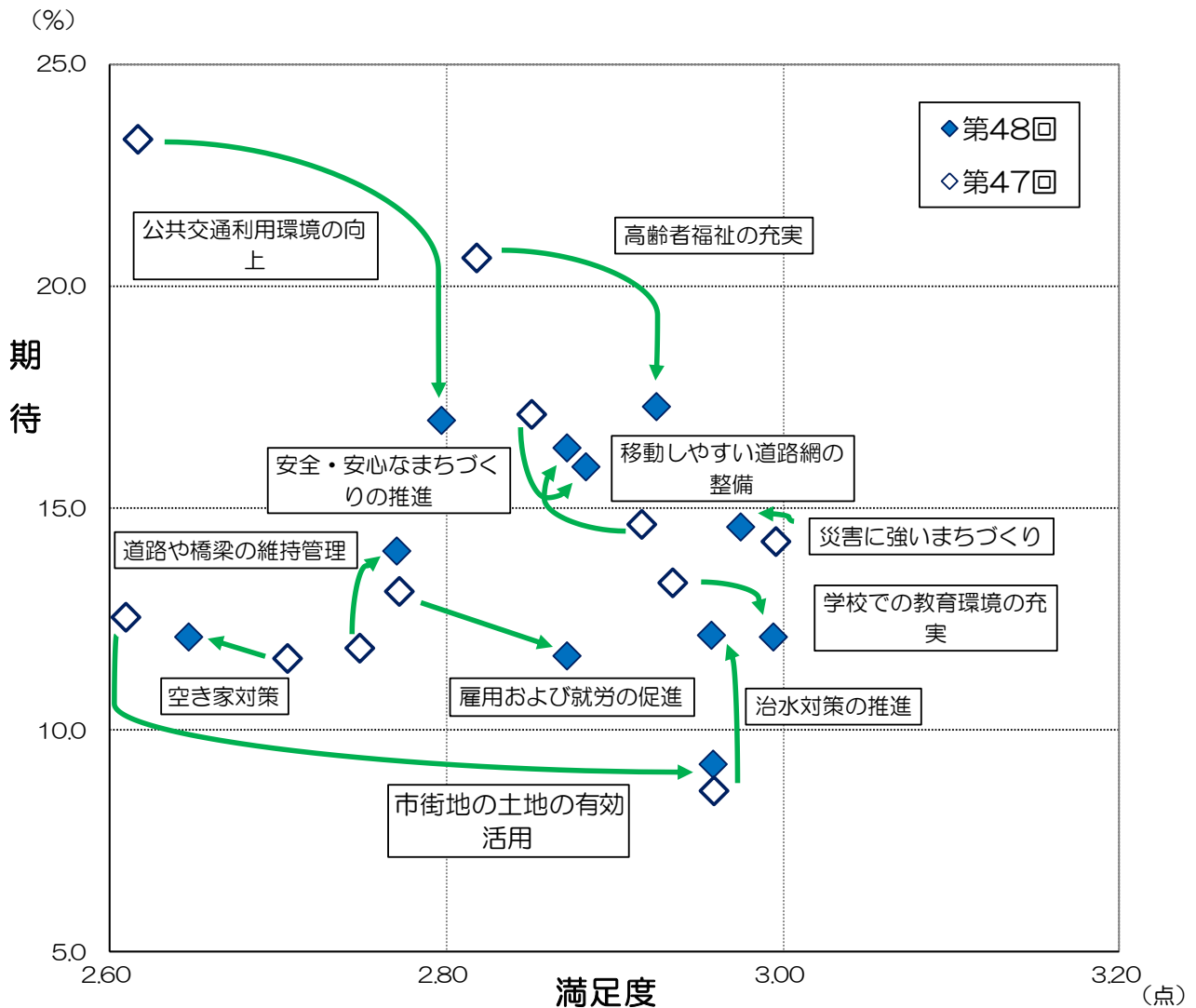
ここで、「市民から特に求められている施策」を前回調査と比較すると、以下のとおりとなりました。11項目中9項目は、前回からの継続項目となっており、今回の調査で加わった項目は「災害に強いまちづくり」と「治水対策の推進」となっています。

【前回調査（12項目）】

【本調査（11項目）】

○ 市街地の土地の有効活用	→	○ 市街地の土地の有効活用
○ 住環境の充実	→	○ 空き家対策の取り組み
○ 雇用および就労の促進	→	○ 雇用および就労の促進
○ 公共交通機関の利用のしやすさ	→	○ 公共交通利用環境の向上
○ 道路や橋梁の維持管理	→	○ 道路や橋梁の維持管理
○ 移動しやすい道路網の整備	→	○ 移動しやすい道路網の整備
○ 交通安全対策の充実		○ 災害に強いまちづくり
○ 安全・安心なまちづくりの推進	→	○ 安全・安心なまちづくりの推進
○ 高齢者福祉の充実	→	○ 治水対策の推進
○ 公園の整備・維持補修	→	○ 高齢者福祉の充実
○ 学校での教育環境の充実	→	○ 学校での教育環境の充実
○ 健全な財政の維持		

続いて、「市民から特に求められている施策」の満足度・期待の変化を下図に示します。



「市民から特に求められている施策」の11項目中、満足度が上昇している項目が7項目、低下している項目が4項目でした。上昇の幅が大きい項目は「市街地の土地の有効活用」「公共交通利用環境の向上」などで、一方低下の幅が大きい項目は「空き家対策の取り組み」「移動しやすい道路網の整備」などとなっています。

期待については、上昇している項目は11項目中5項目でした。上昇している項目は「治水対策の推進」「道路や橋梁の維持管理」などとなっています。

満足度が低下している「空き家対策の取り組み」「移動しやすい道路網の整備」「災害に強いまちづくり」「治水対策の推進」の4項目すべてで期待が上昇していることから、これらの項目については特に今後の施策・事業の取り組みが重要になります。

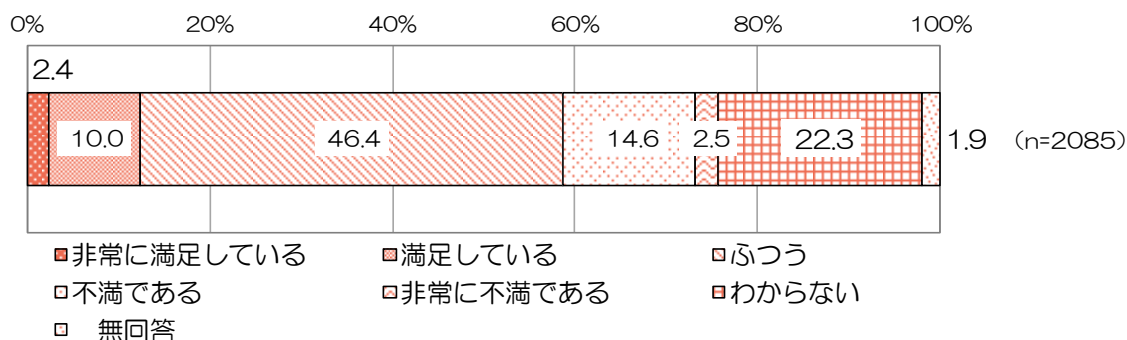
なお、今回調査で「市民から特に求められている施策」に入っていた11項目のうち「災害に強いまちづくり」「治水対策の推進」以外の9項目は、前回調査でも「市民から特に求められている施策」に入っています。

(5) その他

市民の声では、施策・事業内容について、まだまだ“わかりづらい”という意見も見られます。

満足度についての評価（全 40 項目）にあたって、「わからない」と回答した割合についてみると、全 40 項目の平均は 22.3%となっています。

－ 満足度調査における全 40 項目の平均 －



－ 満足度調査における「わからない」回答 (%) の割合 －

第 43 回 40 項目 (平均)	第 44 回 40 項目 (平均)	第 45 回 40 項目 (平均)	第 46 回 40 項目 (平均)	第 47 回 40 項目 (平均)	第 48 回 40 項目 (平均)
18.5%	18.7%	20.8%	22.1%	23.0%	22.3%

「わからない」と回答した割合が最も高い施策・事業は、前回調査に引き続き「多文化共生の推進 (41.9%)」で、次いで「男女共同参画社会の推進 (39.1%)」「産業振興への取り組み (36.3%)」「学校での教育環境の充実 (34.5%)」「農林水産業の振興 (33.9%)」となっています。なお、「学校での教育環境の充実」を除く 4 項目は、前回調査でも「わからない」と回答した割合が上位の 5 項目に含まれていました。

施策・事業項目に対する「わからない」という回答率を減少させることは、市民と市政の距離を近づける大きな指標になっていると考えられます。今後も施策・事業内容に関して市民へ一層わかりやすい情報提供を行っていく必要があります。

2 日ごろの生活と市政について

(1) 市民の意見反映について

問2. 市は、さまざまな機会を通じて、市民の皆さんの意見をお聴きしていますが、市政に反映していると思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

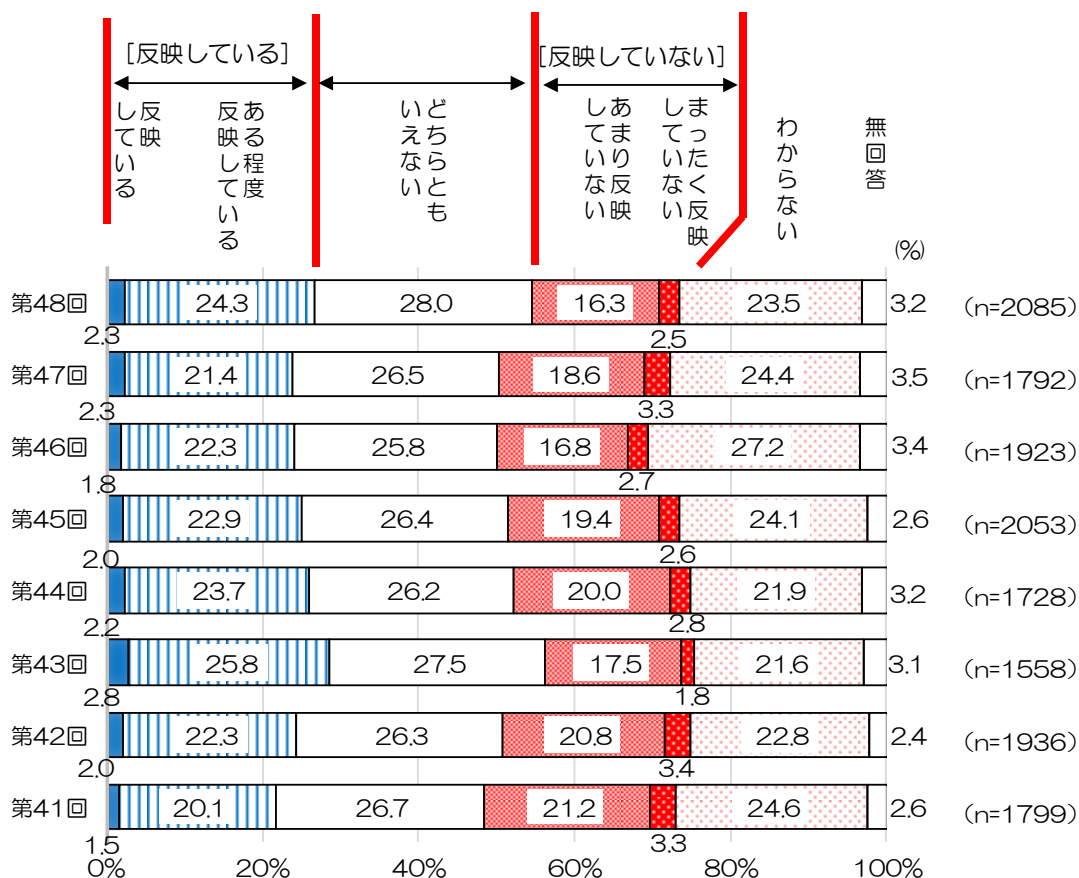
「反映している」が「反映していない」より高い

経年的にみると、前回調査よりも「反映している」は増加、「反映していない」は減少

○市民の意見を市政に反映していると思うかどうかについて聞いたところ、「反映している（「反映している」＋「ある程度反映している」）は26.6%、「反映していない（「まったく反映していない」＋「あまり反映していない」）は18.8%となり、「反映している」と回答した人の割合の方が高くなっています。

○また、「どちらともいえない」と回答した人は28.0%、「わからない」は23.5%となっており、「どちらともいえない」と「わからない」を合わせると半数を超えています。

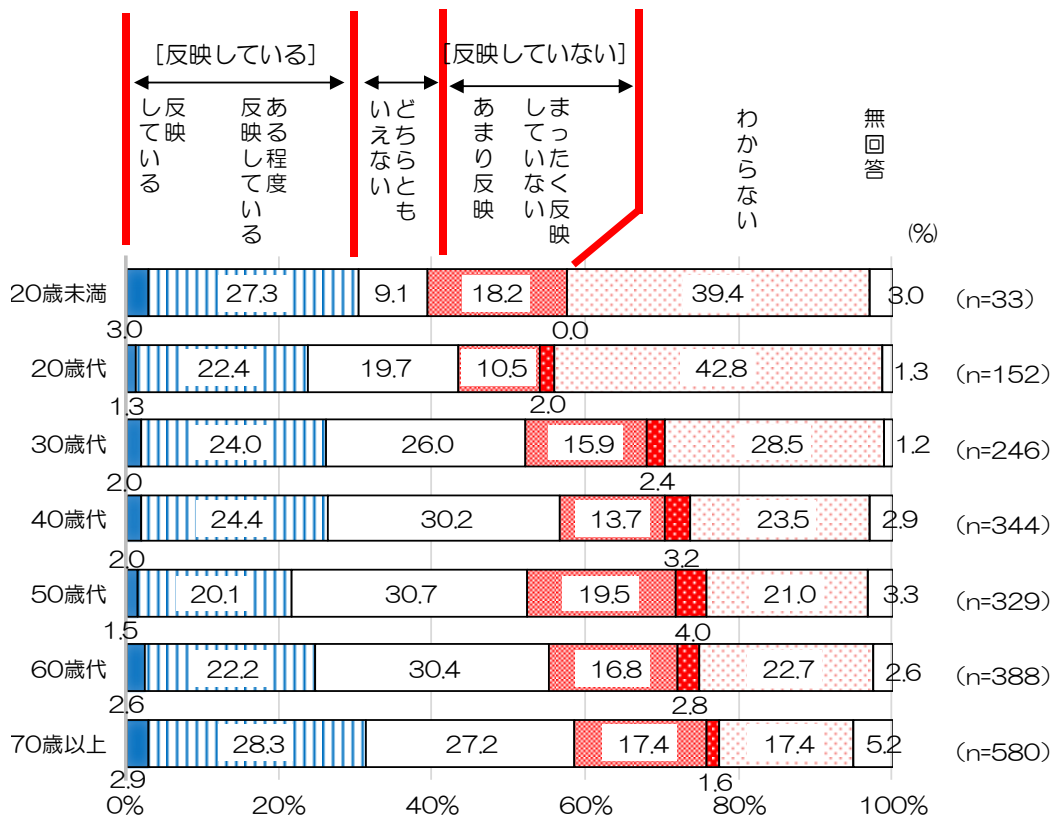
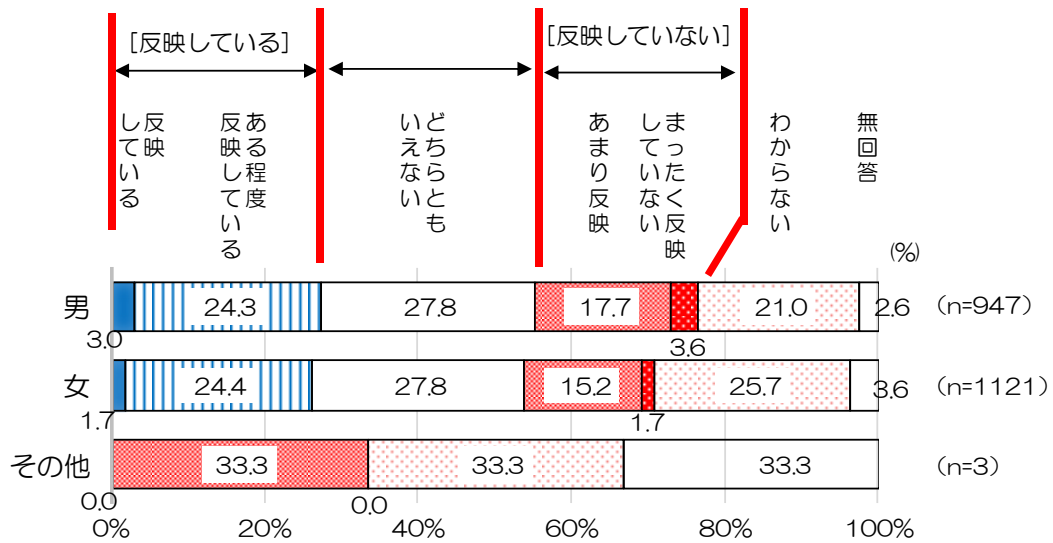
○過年度調査と比較すると、第43回調査以降減少を続けていた「反映している」と答えた人の割合は今回調査では増加し、「反映していない」と答えた人の割合は減少しています。



男性の方が女性よりも「反映していない」は高い
「反映している」と考えている人の割合は70歳以上の高齢者で最も高い

○男女別にみると、「反映している」と答えた人の割合は、男性 27.3%、女性 26.1%と大きな差はありません。「反映していない」と回答した人の割合は、男性 21.3%、女性 16.9%で、男性の方が高くなっています。一方で「わからない」と回答した人の割合は男性 21.0%、女性 25.7%と女性の方が高くなっています。

○年齢別にみると、「反映している」と回答した人の割合は、70歳以上で31.2%と最も高くなっており、50歳代で最も低くなっています。一方で、「わからない」と回答した人の割合は、20歳代以下の若い年齢層で高い傾向となっています。



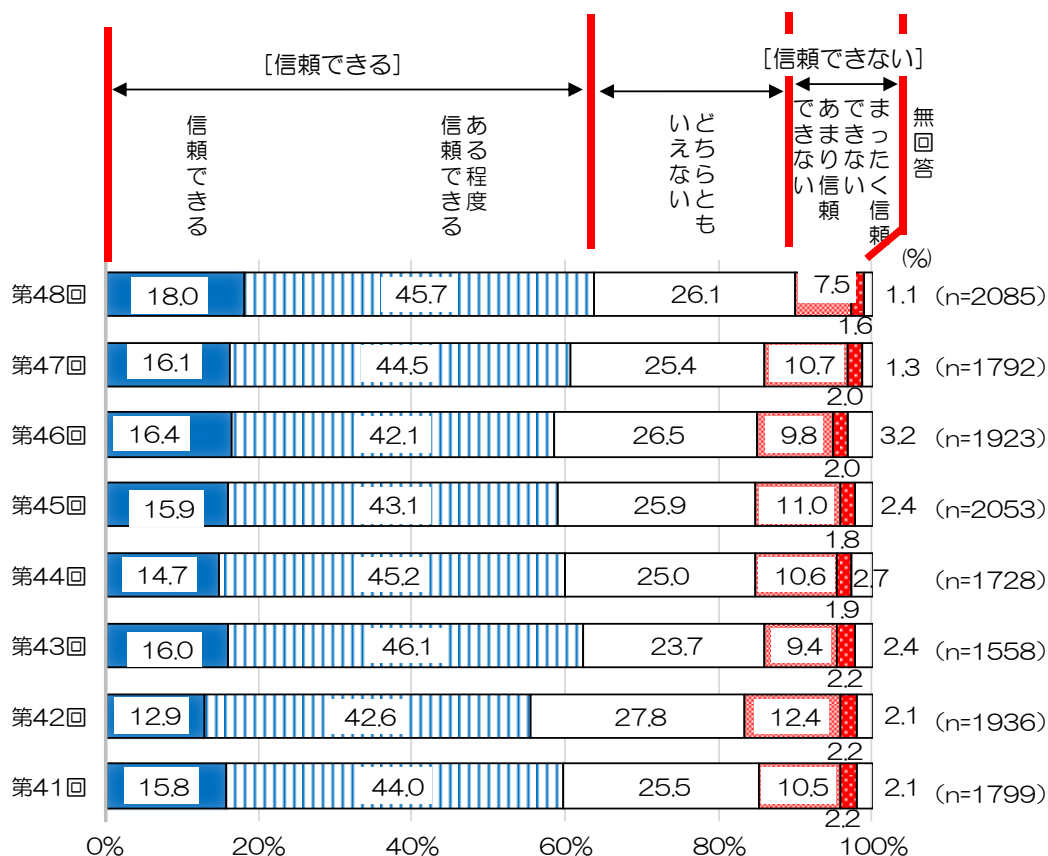
(2) 市職員に対する信頼度について

問3. 市職員の仕事ぶりや市民への窓口対応など、総合的に見て、あなたの市職員に対する信頼度についてお尋ねします。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

前回調査に続き「信頼できる」が6割を超える
経年的にみると、「信頼できる」は増加

○市職員に対する信頼度について聞いたところ、63.7%の人が「信頼できる（「信頼できる」＋「ある程度信頼できる」）」と考えています。反対に、9.1%の人が「信頼できない（「まったく信頼できない」＋「あまり信頼できない」）」、26.1%の人が「どちらともいえない」と回答しています。

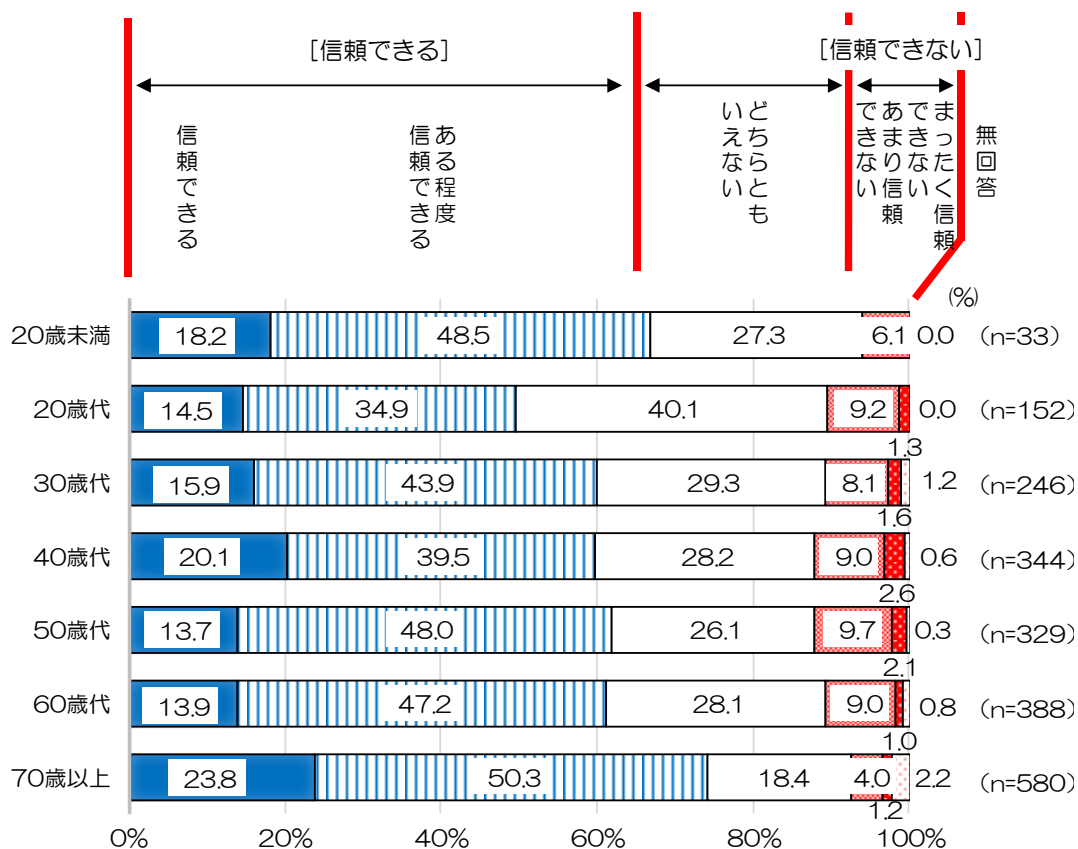
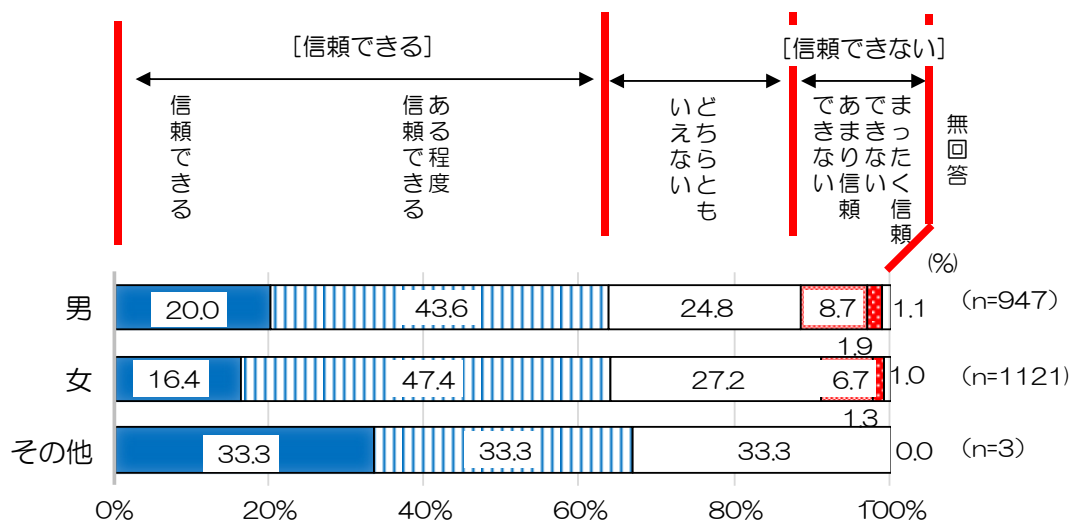
○過年度調査と比較すると、前回調査よりも「信頼できる」と回答した人の割合は3.1ポイント増加しており、一方で「信頼できない」と回答した人の割合は3.6ポイント減少しています。



「信頼できる」が男女ともに6割以上
70歳以上で「信頼できる」と考えている割合が高い

○男女別にみると、「信頼できる」と回答した人の割合は、男 63.6%、女 63.8%と大きな差はありません。また、「信頼できない」と回答した人の割合は、男 10.6%、女 8.0%で男性の方がやや高い結果となっています。

○年齢別にみると、「信頼できる」と回答した人の割合は、70歳以上では74.1%と最も高く、逆に20歳代では「信頼できる」と回答した人の割合が49.4%と最も低くなっています。

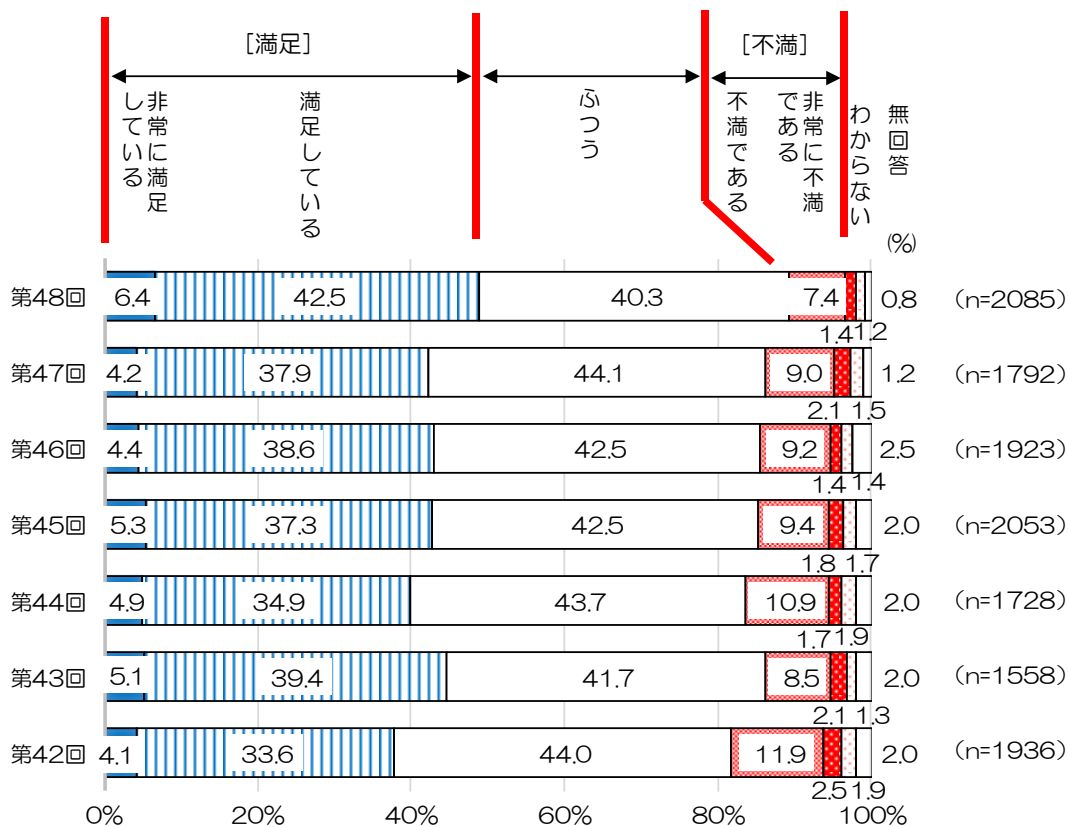


(3) 四日市市居住に対する総合的な満足度について

問4. 四日市市に住んでいることについての総合的な満足度をお尋ねします。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

9割近くの方は不満を感じていない
 経年的にみると、「満足」の割合は第42回調査以降最も高い

○四日市市に住んでいることについての総合的な満足度について聞いたところ、「満足（「非常に満足している」＋「満足している」）」は48.9%で、5割弱の方が四日市市居住に対して総合的に満足していると考えられます。また、「ふつう」と答えた人は40.3%となっています。反対に、「不満（「不満である」＋「非常に不満である」）」と回答した人は8.8%となっています。以上の結果から、約9割の方が現状に不満を感じていないと捉えることができます。また、前回調査と比べ、総合的な満足度は向上しています。



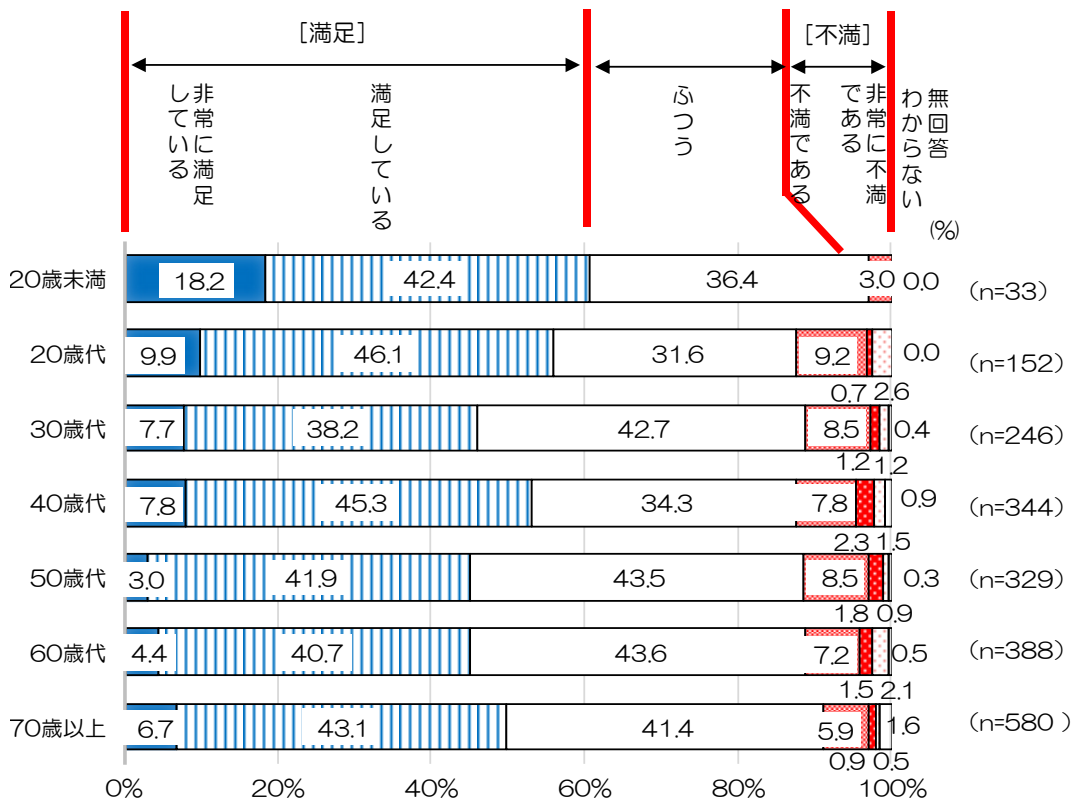
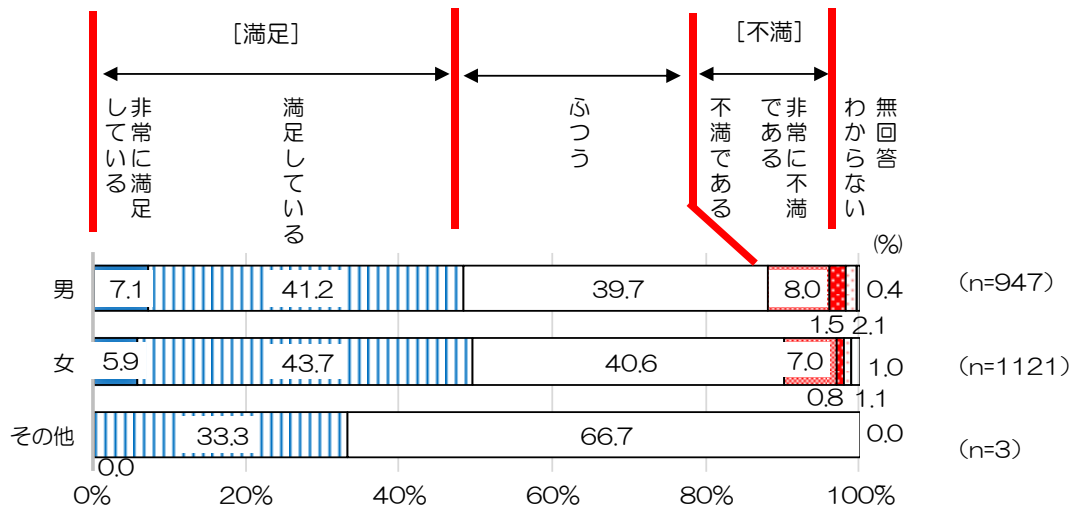
【四日市市居住に対する満足度について】

四日市市居住に対する総合的な満足度について、問1と同様に評価得点（6ページ参照）を算出すると、評価得点は3.46となり、市政における施策・事業に対する満足度の評価得点（40項目の平均）3.06と比較して高い数値となっています。

「満足」している割合に男女で大きな差はない
20歳代から50歳代では1割の人が「不満」と考えている

○「満足」（「非常に満足している」＋「満足している」）と回答した人の割合は、男性 48.3%、女性 49.6%とほぼ同じような傾向となっています。

○年齢別にみると、「満足」と考えている人の割合は、20歳未満で最も高く約6割となっています。反対に、「不満」と考えている人の割合は20歳代から50歳代でやや高くなっています。



(4) 市の広報活動について

① この3カ月間で利用した広報媒体

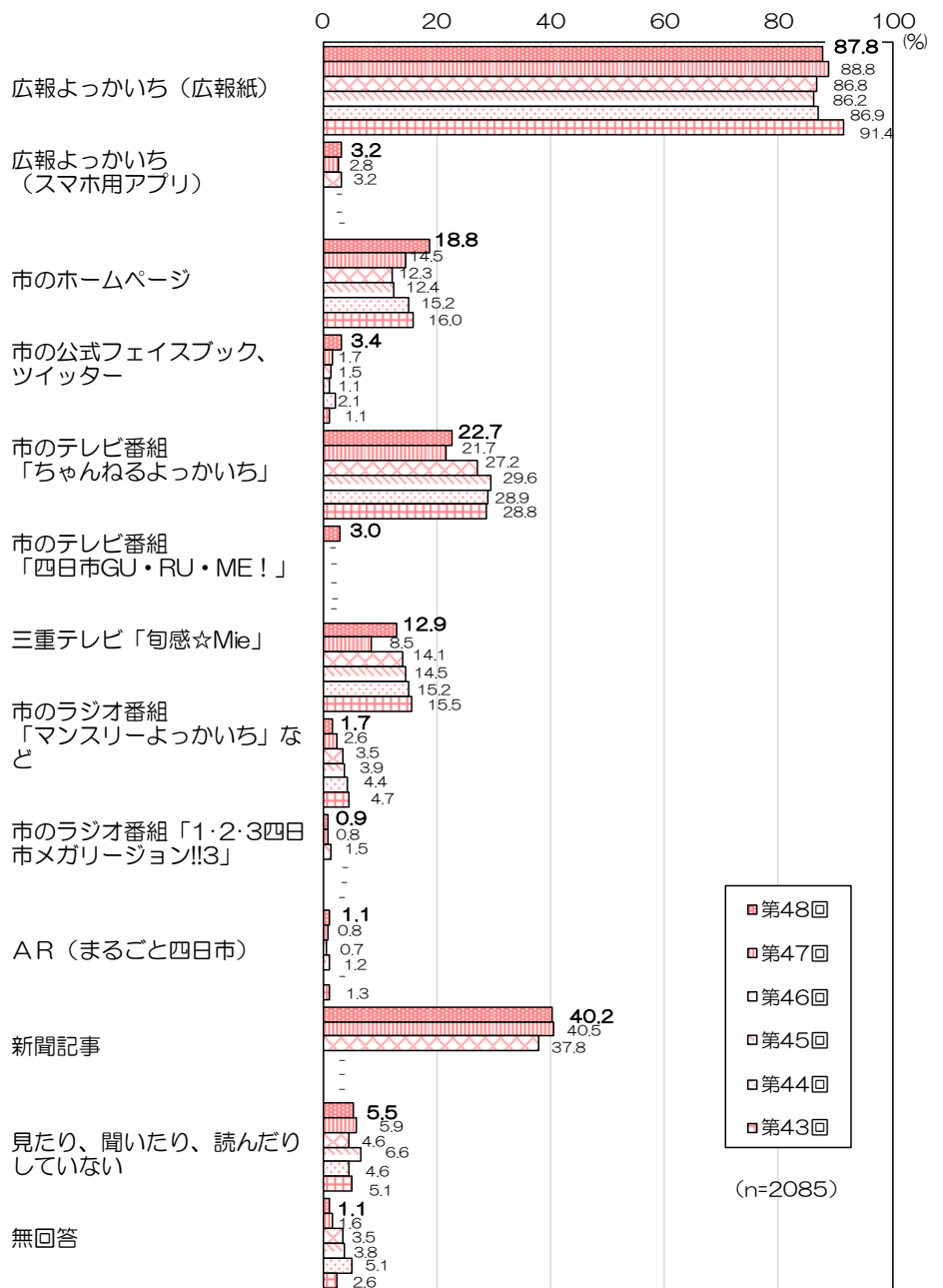
問5. 市が行う広報活動の中で、あなたがこの3カ月の間で、見たり、聞いたり、読んだりしたことがあるものはどれですか。
次の中から当てはまるものを選んで番号に○をつけてください。

「広報よっかいち（広報紙）」が9割弱、「新聞記事」が約4割強
前回調査と比べ、「市のホームページ」、「市の公式フェイスブック、ツイッター」、「旬感☆Mie」は増加

○この3カ月間に見たり、聞いたり、読んだりしたことがある広報活動については、「広報よっかいち（広報紙）」が87.8%で最も高く、次いで「新聞記事」40.2%、「ちゃんねるよっかいち」22.7%、「市のホームページ」18.8%の順になっています。

また、広報活動に関心の薄い人（見たり、聞いたり、読んだりしていない人）は5.5%となっています。

○過年度調査と比較すると、前回調査に比べ「市のホームページ」、「市の公式フェイスブック、ツイッター」、「旬感☆Mie」などでやや増加しています。

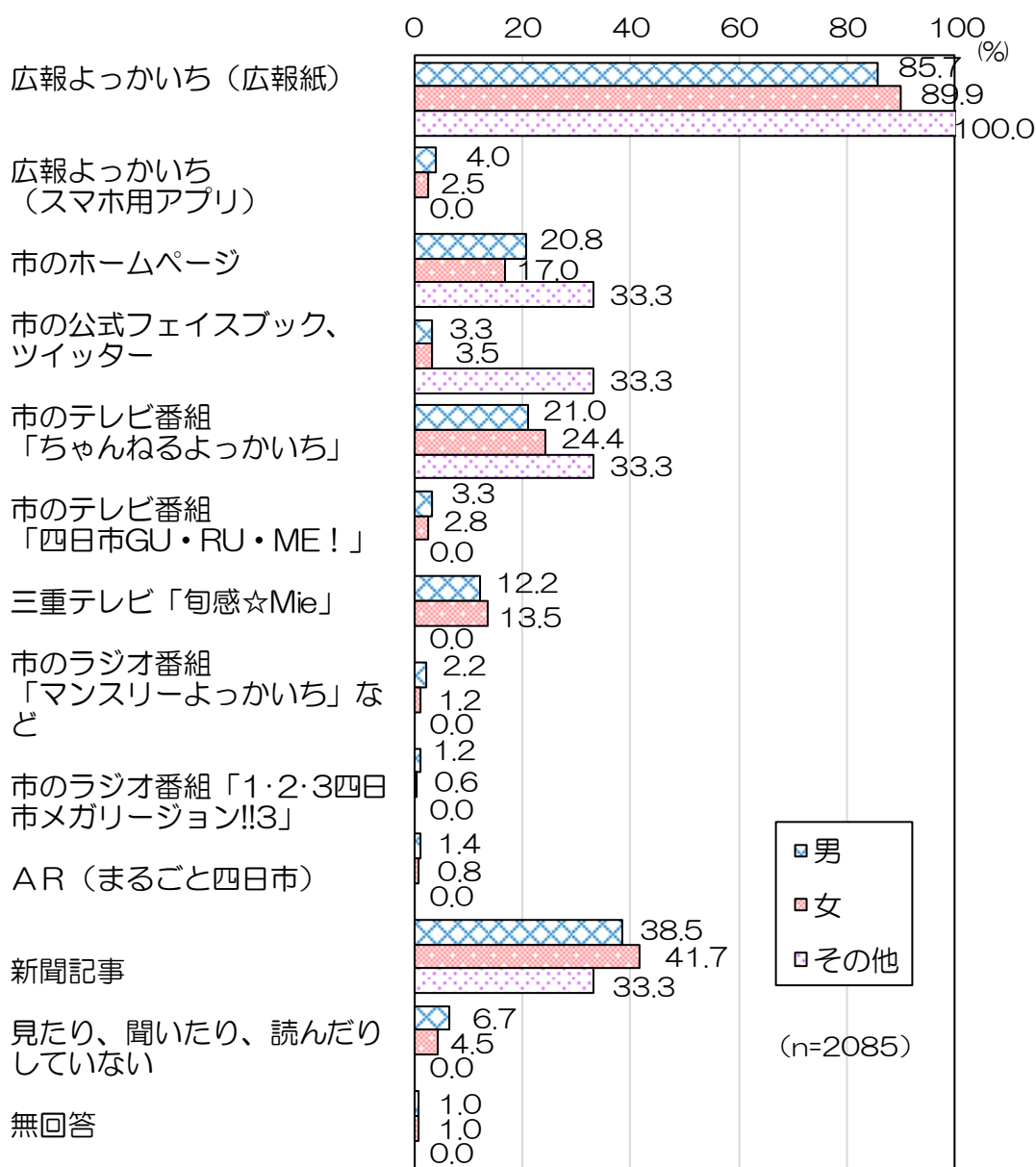


「広報よっかいち（広報紙）」「ちゃんねるよっかいち」「新聞記事」は、女性の方がやや高い

○男女別にみると、「広報よっかいち（広報紙）」は男性 85.7%、女性 89.9%、「新聞記事」は男性 38.5%、女性 41.7%、「ちゃんねるよっかいち」は男性 21.0%、女性 24.4%となっています。

○男女で差を比較すると、「市のホームページ」は男性の方がやや高く、「広報よっかいち（広報紙）」、「ちゃんねるよっかいち」、「新聞記事」は女性の方がやや高くなっています。

○広報活動に関心が薄い人（「見たり、聞いたり、読んだりしていない」と回答した人）は男性 6.7%、女性 4.5%で男性の方が若干高くなっています。

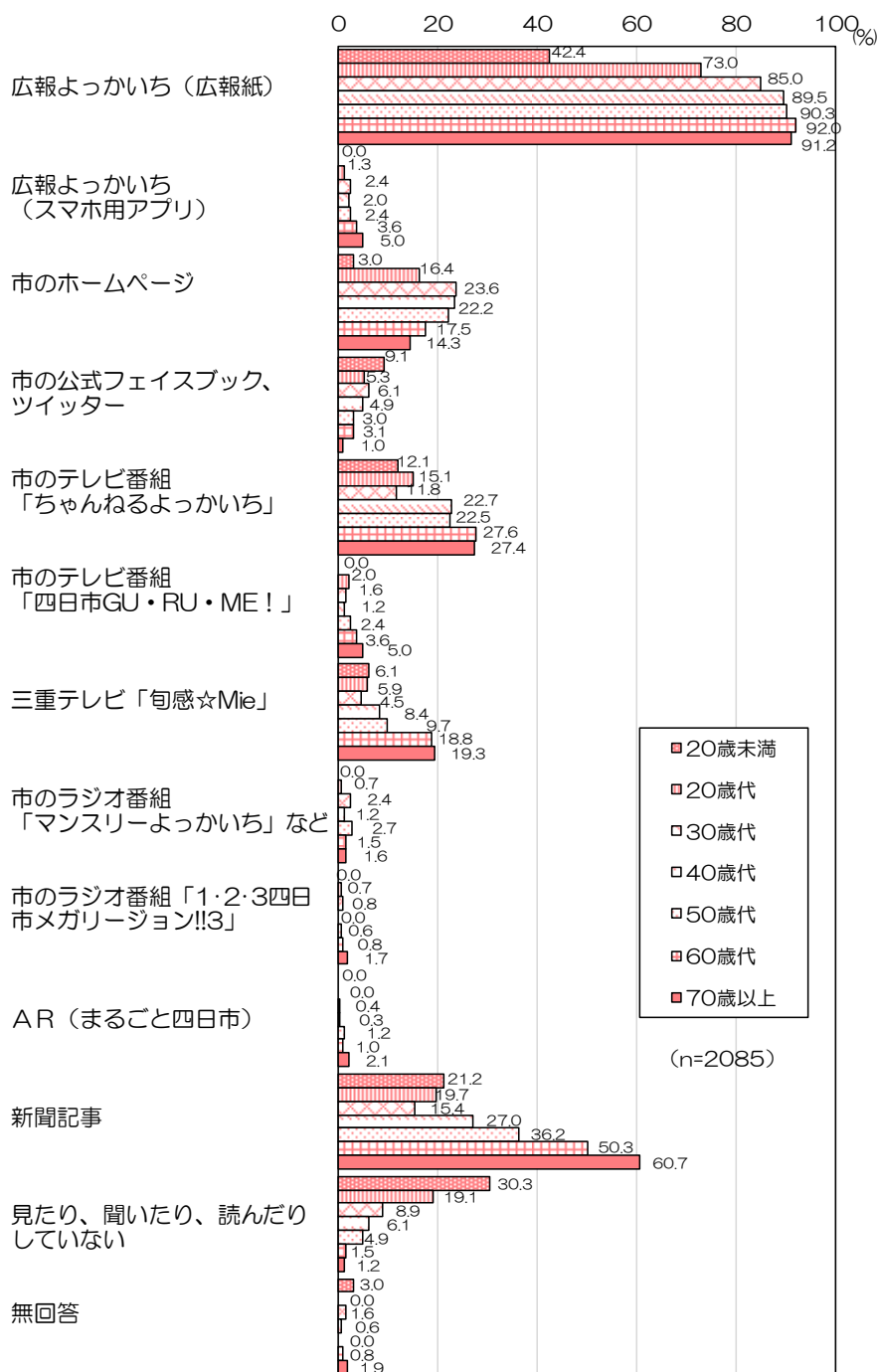


「広報よっかいち」を見る割合は30歳以上では約9割だが、20歳未満では約4割
 年齢が低くなるにつれて「見たり、聞いたり、読んだりしていない」と回答した割合も高い

○年齢別にみると、「広報よっかいち（広報紙）」は、30歳代以上では、約9割であるのに対し、20歳未満では42.4%と半数を下回っています。「市の公式フェイスブック、ツイッター」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっており、「ちゃんねるよっかいち」「旬感☆Mie」「新聞記事」と回答した人の割合は、年齢が高い層で高くなっています。

○年齢別で差が大きかった項目としては、「広報よっかいち（広報紙）」（最大60歳代92.0%、最小20歳未満42.4%）、「新聞記事」（最大70歳以上60.7%、最小30歳代15.4%）などとなっています。

○「見たり、聞いたり、読んだりしていない」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっており、20歳未満では30.3%となっています。



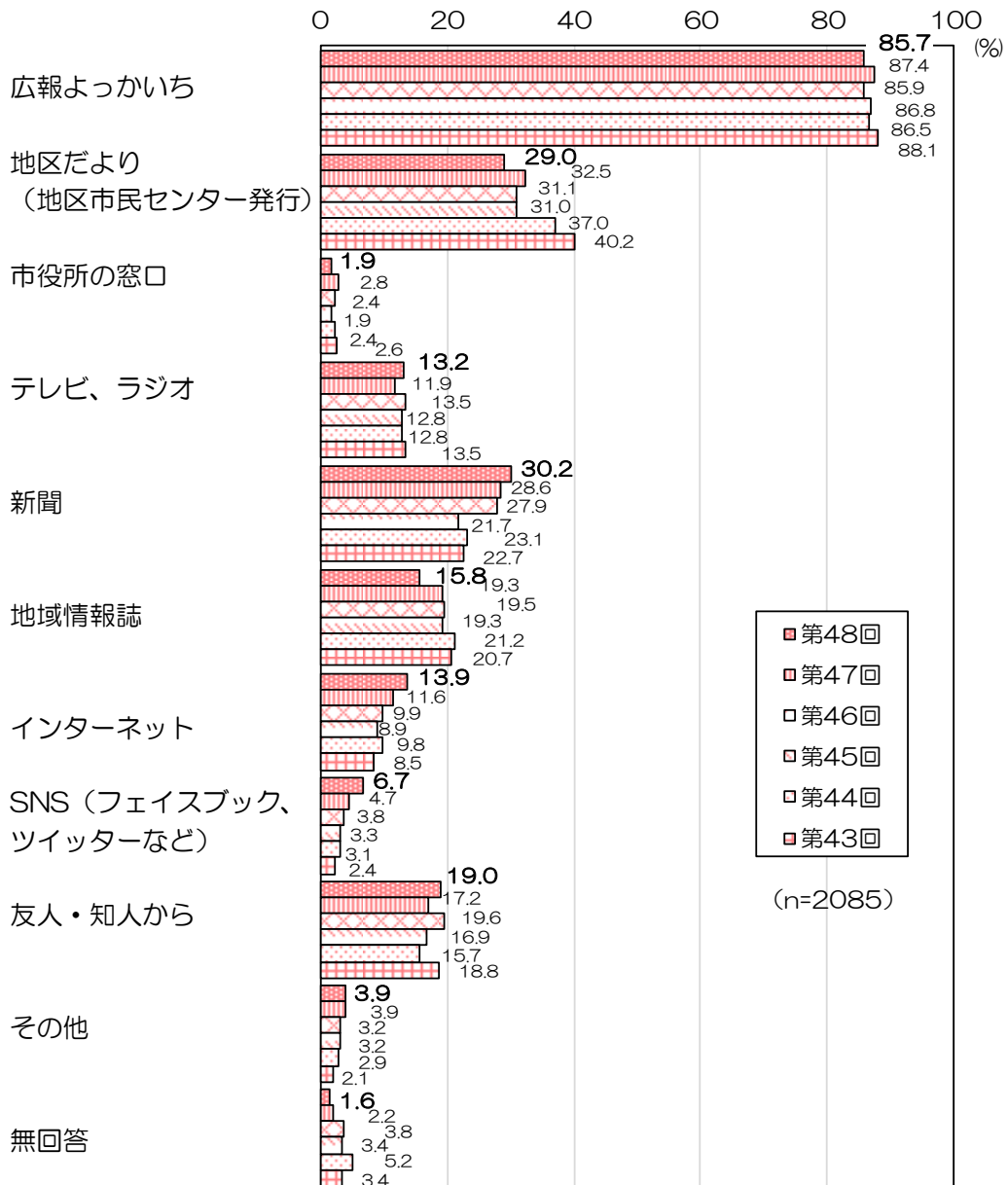
② 市が開催するイベントなどの行政情報入手媒体

問6. 市が開催するイベントや市の施策などの行政情報をどのように入手していますか。
次の中から当てはまるものを選んで番号に○をつけてください。

情報入手は「広報よっかいち」からが9割弱
「地区だより」「新聞」が約3割

○市が開催するイベントなどの行政情報をどのように入手しているか聞いたところ、「広報よっかいち」が85.7%と最も高く、次いで「新聞」が30.2%、「地区だより（地区市民センター発行）」が29.0%となっています。

○過年度調査と比較すると、「新聞」「インターネット」「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」では増加傾向がみられる。「地区だより（地区市民センター発行）」は第43回調査以降最も低く3割を下回っています。

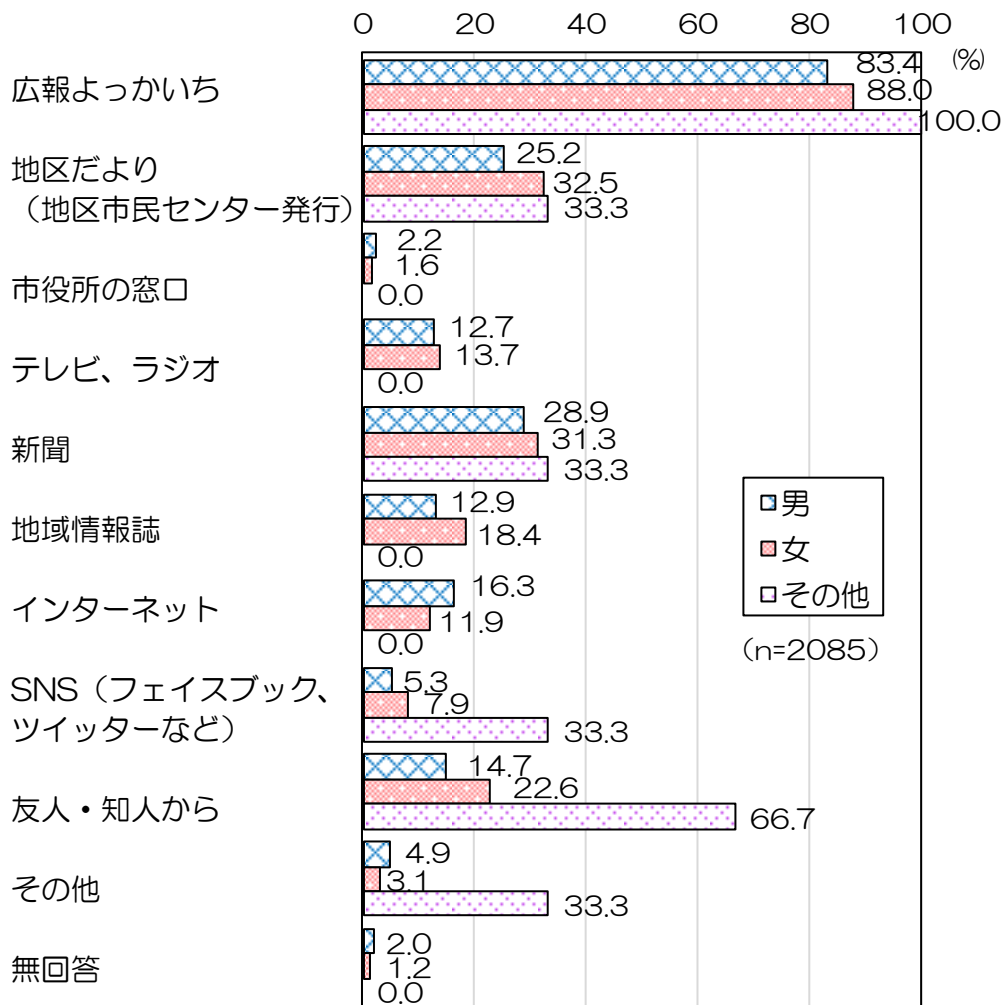


「インターネット」は男性の方が高い

「地区だより（地区市民センター発行）」「友人・知人から」「地方情報誌」は女性の方が高い

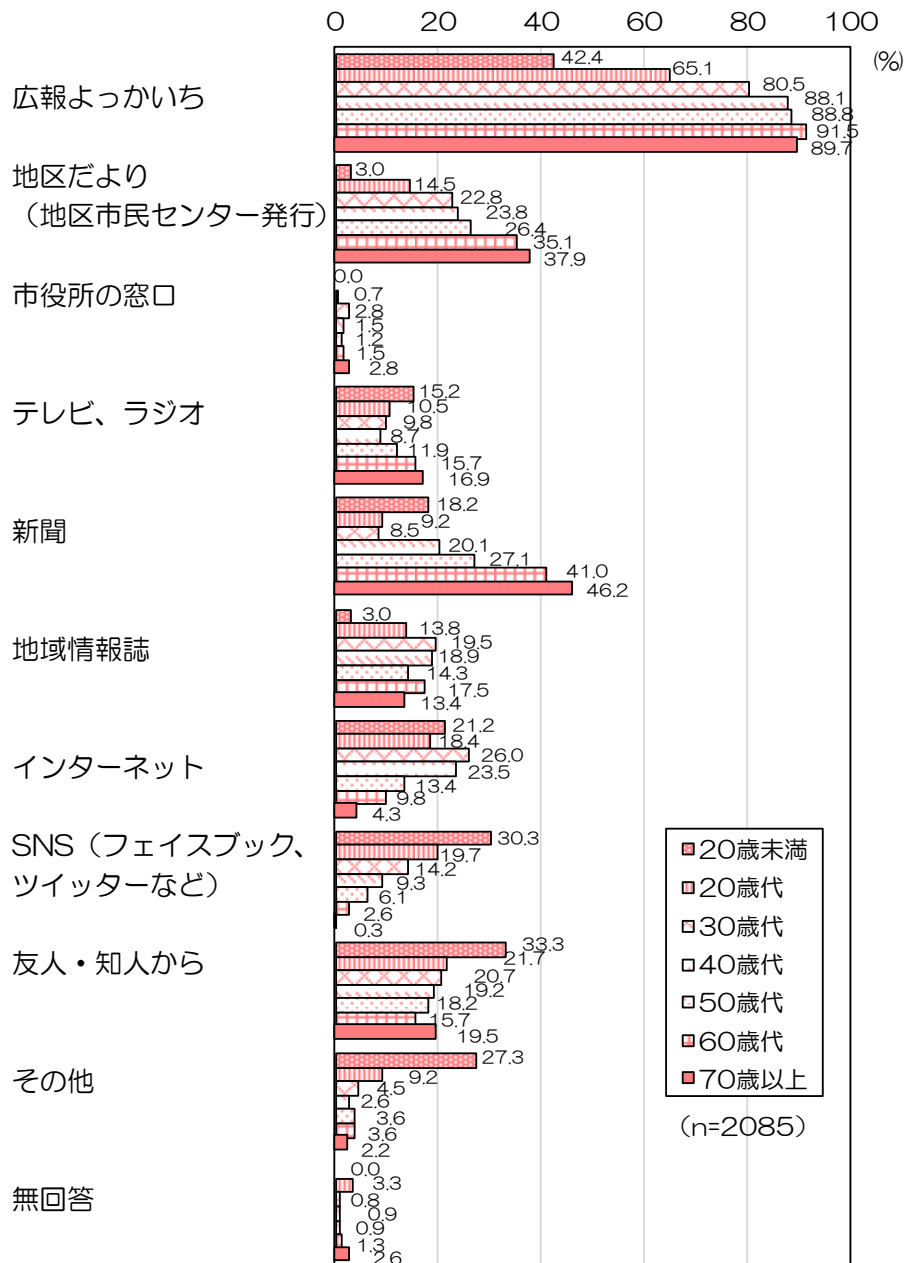
○男女別にみると、「広報よっかいち」は男性 83.4%、女性 88.0%、「新聞」は男性 28.9%、女性 31.3%、「地区だより（地区市民センター発行）」は男性 25.2%、女性 32.5%となっています。

○男女で差を比較すると、「インターネット」は男性の方がやや高く、「地区だより（地区市民センター発行）」「地域情報誌」「友人・知人から」は女性の方が5ポイント以上高くなっています。



いずれの年代も「広報よっかいち」が高い
「地区だより（地区市民センター発行）」「新聞」は高齢層で高い
「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」は若年層で高い

- 年齢別にみると、「広報よっかいち」は、いずれの年代でも最も多いものの、30歳代以上では、8割を超えているのに対し、20歳代65.1%、20歳未満は42.4%となっています。
- 「地区だより（地区市民センター発行）」「新聞」と回答した人の割合は、年齢が高くなるにつれて高い傾向がみられ、一方「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」と回答した人の割合は、年齢が低くなるにつれて高くなっています。また「友人・知人から」は20歳未満で33.3%と他の年齢と比べて高くなっています。
- 年齢別で差が大きかった項目としては、「広報よっかいち」（最大60歳代91.5%、最小20歳未満42.4%）、「新聞」（最大70歳以上46.2%、最小30歳代8.5%）などとなっています。



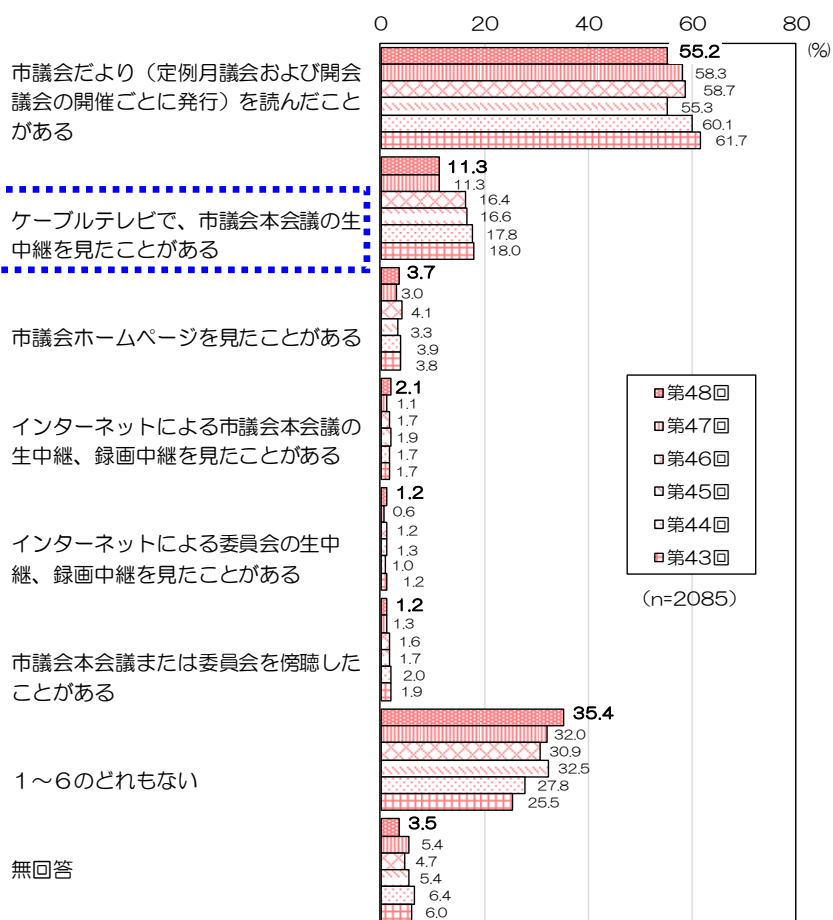
(5) 市議会について

問7. 市議会では、いろいろな方法で議会の活動を皆さんにお知らせするように努めていますが、次の中から当てはまるものを選んで番号に○をつけてください。

問7-1. この1年間で、どのくらい生中継を見たことがありますか。(1つだけ)

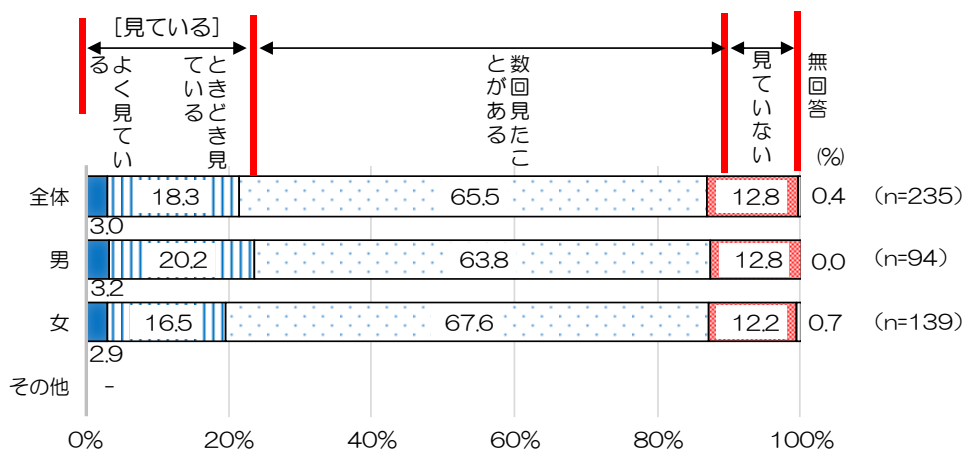
「市議会だよりを読んだことがある」人が55.2%

- 「市議会だよりを読んだことがある」人が55.2%で最も高くなっています。「ケーブルテレビで、市議会本会議の生中継を見たことがある」は11.3%であり、前回調査と変わらず推移しています。
- 「1～6のどれもない(見たり聴いたりしたことがない)」人は35.4%で2番目に高い結果となっています。
- 前回調査と比較すると、「市議会だよりを読んだことがある」人は減少、「1～6のどれもない(見たり聴いたりしたことがない)」人は増加しており、第43回調査以降最も高くなっています。



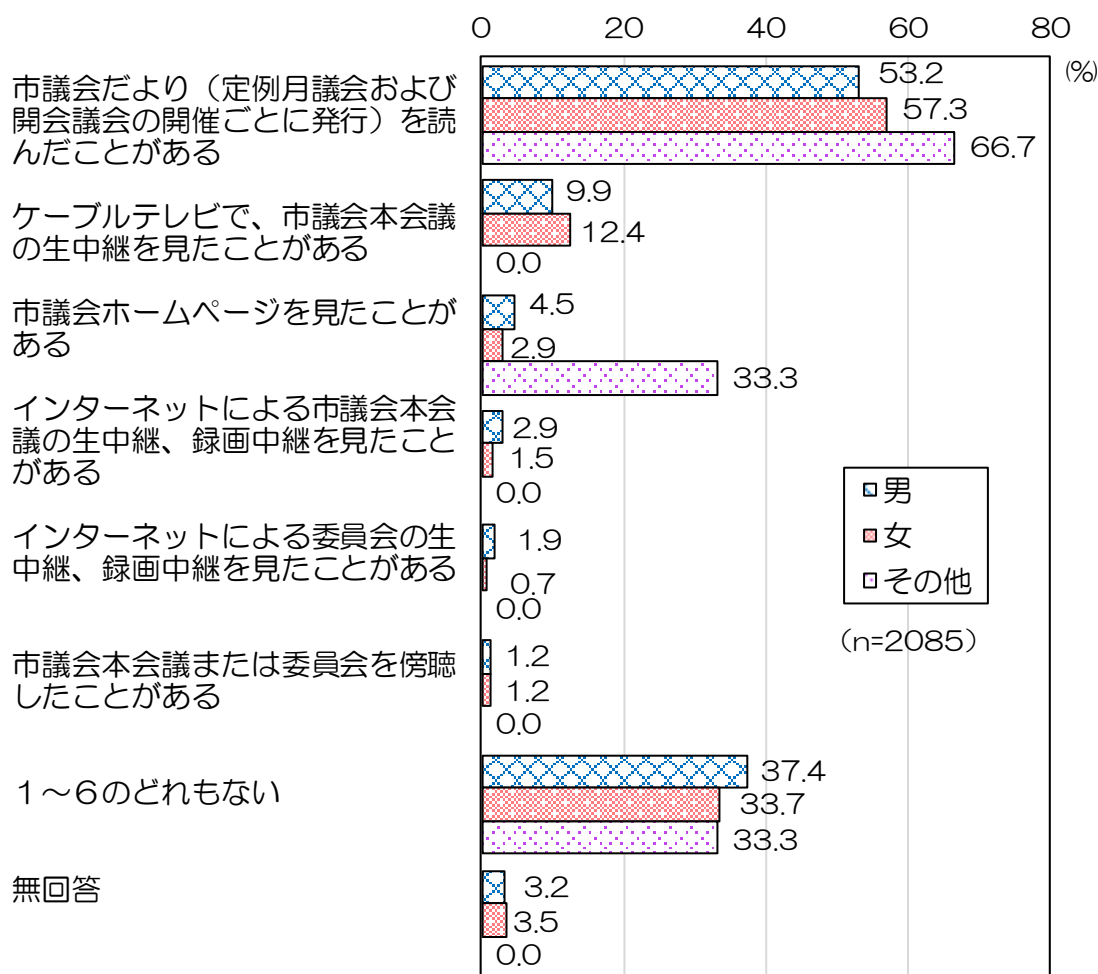
【見たことがある人に対して(問7-1)】

○「ケーブルテレビで、市議会本会議の生中継を見たことがある」人に対して、この1年間でどのくらいの頻度を見たのかを聞いたところ、年間で数回(1～5回程度)より多く見たことがある割合が8割半ばを超えています。



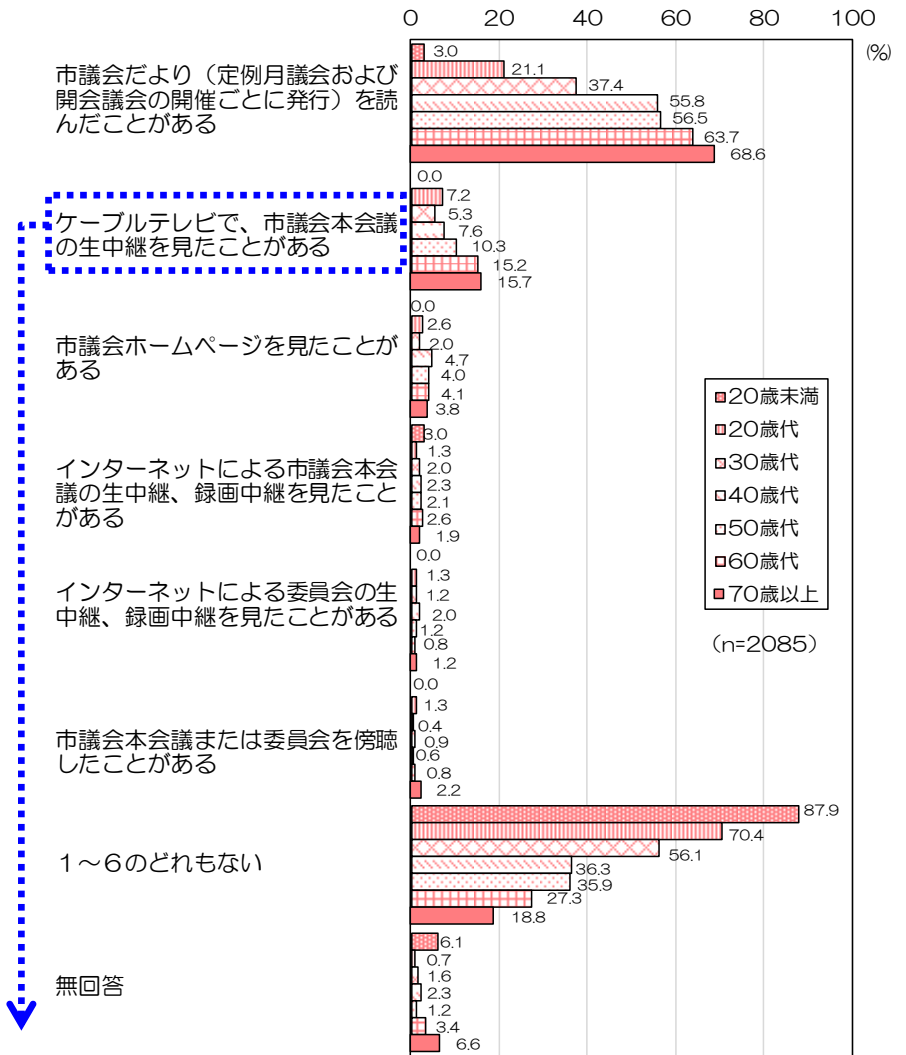
「市議会だより」「ケーブルテレビで市議会本会議生中継」はどちらも女性の方が多い

- 男女別にみると、「市議会だよりを読んだことがある」と回答した人の割合は、男性が53.2%、女性が57.3%、「ケーブルテレビで、市議会本会議の生中継を見たことがある」と回答した人の割合は男性が9.9%、女性が12.4%とどちらも女性の方が男性よりも高くなっています。
- 「1～6のどれもない（見たり聴いたりしたことがない）」人については男性が37.4%、女性が33.7%と男性の方が女性よりも高くなっています。



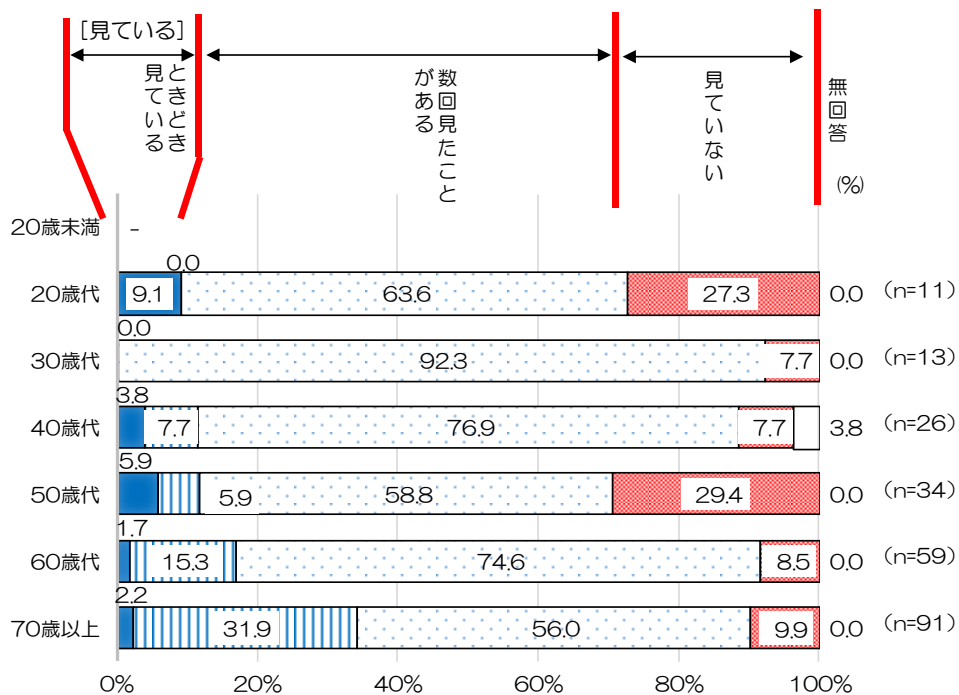
「見たり聴いたりしたことがない」人は年齢が低いほど多く、20歳未満では9割弱

- 年齢別にみると、「市議会だよりを読んだことがある」人の割合は、20歳未満で3.0%、70歳以上で68.6%と年齢が高くなるにつれて高くなっています。
- 「ケーブルテレビで、市議会本会議の生中継を見たことがある」人も、30歳代以上では年齢が高くなるほど多くなっています。
- 「1～6のどれもない（見たり聴いたりしたことがない）」人の割合は、年齢が低いほど高く、20歳代では約7割、20歳未満では9割弱となっています。



【見たことがある人に対して（問7-1）】

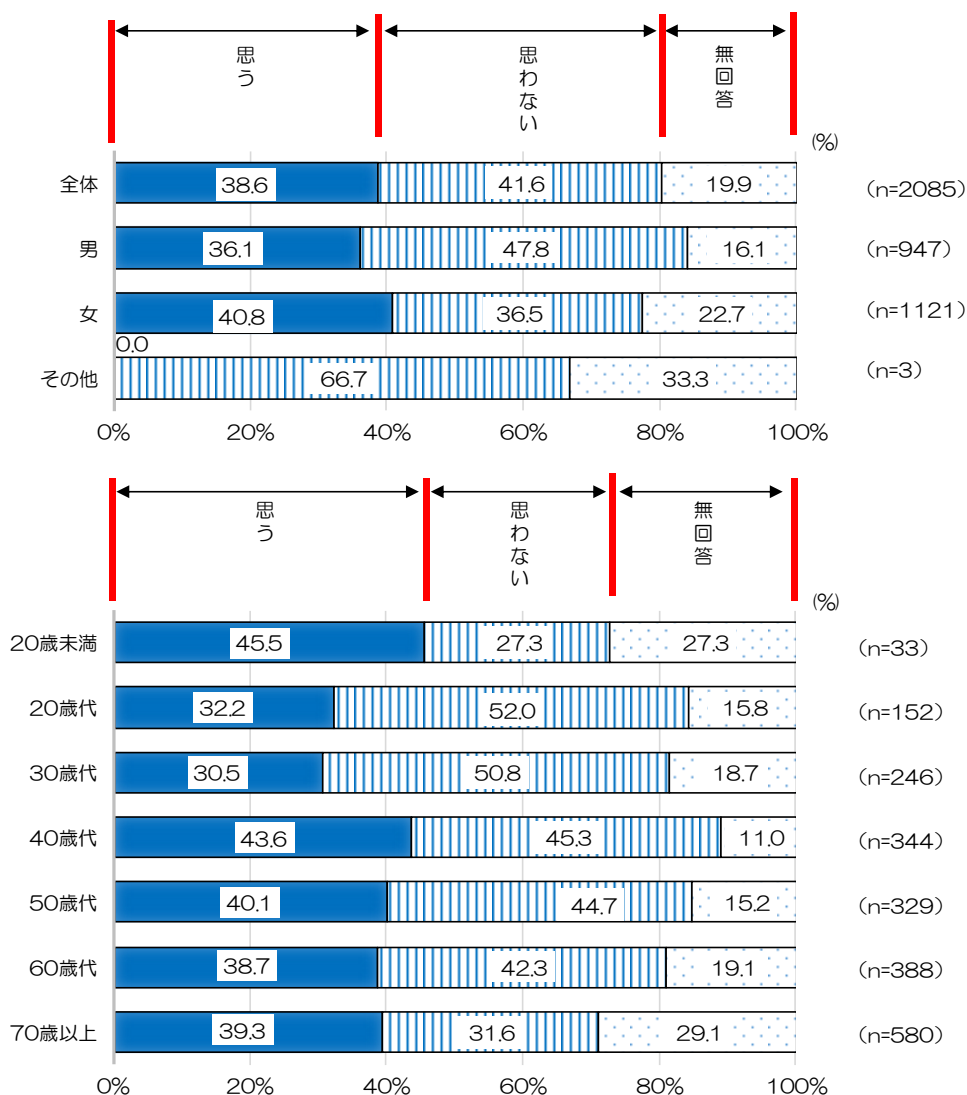
- ケーブルテレビで、この1年間で市議会本会議の生中継を見た頻度は、「見ている」人の割合は年齢が高くなるほど高くなっています。



問8. 市議会では「問7」にあるように、「市議会だより」や「インターネット」等で活動内容を市民の皆さんにお伝えしていますが、分かりやすいと思いますか。
次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

「(分かりやすいと) 思わない」人の方が多い
男性の方が女性よりも「思わない」と感じている割合が高い
20歳代、30歳代では「思わない」が5割

- 「市議会だより」や「インターネット」等での活動報告について分かりやすいと思うかを聞いたところ、38.6%の人が「(分かりやすいと) 思う」と回答しており、「(分かりやすいと) 思わない」が41.6%で、「思わない」人のほうが多くなっています。
- 男女別にみると、「思う」と回答した人の割合は、男性36.1%、女性40.8%で差は大きくありませんが、「思わない」と回答した人の割合は、男性47.8%、女性36.5%で男性の方が10ポイント以上高い結果となっています。
- 年齢別にみると、20歳代から60歳代では「思う」の割合より「思わない」の割合の方が多く、20歳代、30歳代では「思わない」の割合が5割を占めています。



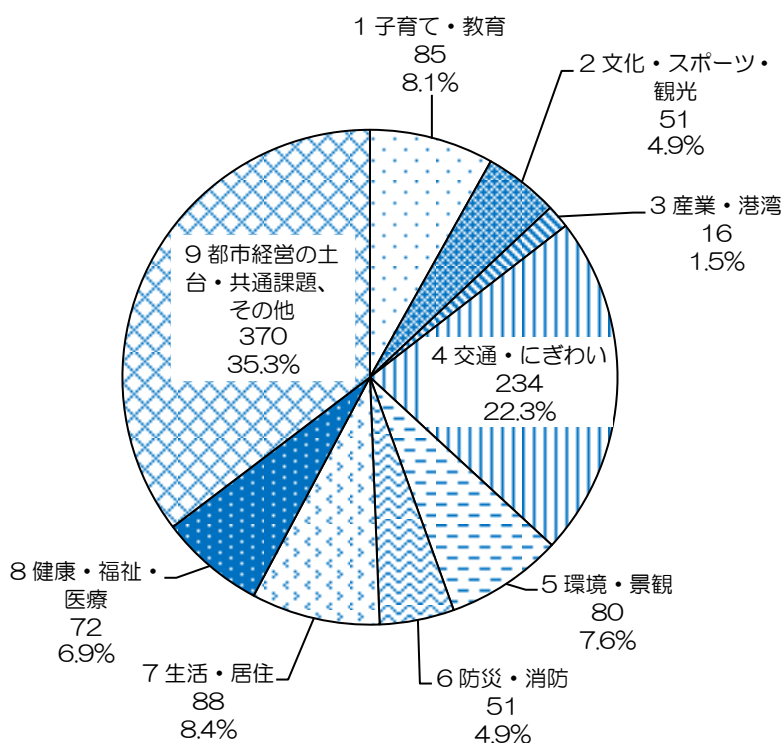
3 自由意見

市政に対する意見や要望を自由に書いていただく自由回答欄を設け、回答者 2,085 人から合計 1,039 件のご意見をいただきました。

市政に対する意見や要望などのご意見を、『分野別基本政策』（※「四日市市総合計画（2020～2029）」より）の計9項目で整理すると、「市政全般への意見・要望」や「市職員の対応・窓口サービスなどについて」の『9 都市経営の土台・共通課題、その他』が 35.3%で最も多く、次いで、『4 交通・にぎわい』（22.3%）についての意見が多くなっています。

施策項目別でみると、「(13)道路について」が 130 件で最も多く、次いで「(50)市政全般への意見・要望」、「(51)その他」、「(14)交通施策・公共交通機関について」、「(48)市職員の対応・窓口サービスなどについて」のご意見が多くなっています。

－ 市政に対するご意見やご要望などの内訳 －



※1件の意見の中に複数の施策項目に関連する内容が含まれる場合、それぞれの項目で件数を計上しているため、グラフ内の合計が 1,039 件より多くなっています。

－ ご意見やご要望などの数が多かった施策項目（上位 10 位） －

順位	施策項目	意見数	順位	施策項目	意見数
1 位	(13)道路について	130	6 位	(44)広報について	46
2 位	(50)市政全般への意見・要望	92	7 位	(1)子育て支援について	43
3 位	(51)その他	64	8 位	(2)教育について	42
4 位	(14)交通施策・公共交通機関について	50	9 位	(21)防災対策について	36
5 位	(48)市職員の対応・窓口サービスなどについて	47	10 位	(16)中心市街地の活性化について	32